

第9章 社会教育

第1節 概要

1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、様々な課題が多様化、複雑化、専門化した現代において「人づくり」「地域づくり」に取り組む社会教育の役割の重要性を鑑み、震災後11年を迎える今、数々の現代的課題を乗り越える社会教育の在り方について考え、議論した。このことを社会教育委員の立場から、進捗状況を検証してきた。(第2章 第7節に記載)

2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携・協力を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、互いの役割分担を明確に認識し、対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す「地域学校協働本部事業」を実施した。地域住民による学校支援を「学校を核とした地域づくり」に深化させていくために、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、地域と学校が双方向で連携・協働する活動の充実を図った。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するための支援を行い、教育環境の復興に努めた。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携や支援の届かない家庭へのアウトリーチ型支援等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのため、「福島県地域学校協働本部」を設置し、学校・家庭・地域の連携・協力の充実を図りながら、

地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりを推進した。また、子どもと大人が、共通の体験をとおして感動したことや共感したこと、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への想いや震災の記憶の継承などを日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動の充実や社会参加活動の促進に努めた。

6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとする中高校生によるビブリオバトル福島県大会の開催や、子どもの発達段階や新しい生活様式を踏まえた読書活動の推進を図った。

7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

(1) 事業1 ふくしまキッズパワーアップ事業

自然体験活動に加え福島ならではの多様な体験活動等とおして、心身の健康の維持向上を図るとともに、社会に貢献する意識を高め、主体的にふくしまの未来を切り拓く、たくましい子どもたちを育成するために「ふくしまキッズパワーアップ事業」を実施した。充実した自然体験活動や震災を学ぶ体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

(2) 事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが主体的に復興の発信や震災の教訓の継承等に寄与する社会体験活動を県内外で広く体験することで、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成するため、「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

(3) 事業3 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

不登校等で不安を抱えている子どもたちを支援するため

に、自然の家を活用した自然体験活動や交流活動等を継続的に提供した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 令和4年4月8日(金)

場 所 福島県自治会館

第2回 日 時 令和5年2月10日(金)

場 所 中町ビル

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事の配置を求めるなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実を図るとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和4年5月24日(火)、27日(金)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 76名

オ 講師 福島県高浜町立和田公民館 館長 村宮 博明
 栃木県総合教育センター 生涯学習部長 井上 昌幸
 小名浜公民館 主査 赤津 智彦

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和4年8月2日(火)～3日(水)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村教育委員会生涯学習・社会教育担当者、社会教育主事、公民館主事、社会教育委員、社会教育指導員、公民館運営審議会委員、ボランティア実践者、地域コーディネーター等の社会教育に関心のある県民、過去に社会教育主事講習を受講した方等

エ 参加者数 26名

オ 講師 福島県福井市河合公民館 藤田 育代
 千葉大学 名誉教授 長澤 成次
 棚倉町立高野小学校長 戸倉深希子

4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会
 一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 期日 令和4年10月13日(木)～14日(金)

(3) 開催地 いわき市 いわき市文化センター

(4) 内容 第44回全国公民館研究集会 令和4年度東北地区社会教育研究大会 第67回東北地区公民館大会福島大会(兼)令和4年度福島県社会教育研究集会 第71回福島県公民館研究集会

ア 1日目:10月13日(木)

開会行事、アトラクション、記念講演を実施した。

イ 2日目:10月14日(金)

分科会(5分科会)を実施した。

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数 (単位:人)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
社会教育指導員数	35	16	11	48	8	11	6	135

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会(年2回)

ア 第1回

(ア) 期日 令和4年5月13日(金)

(イ) 会場 郡山市立中央公民館

(ウ) 参加者数 70名

イ 第2回

(ア) 期日 令和4年10月7日(金)

(イ) 会場 棚倉町文化センター

(ウ) 参加者数 90名

6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県北	11月24日	川俣町	31名
県中	11月9日	小野町	4名
県南	6月3日	西郷村	26名
	7月13日	矢祭町	21名
	11月15日	白河市	25名
会津	10月3日	西会津町	8名
	11月17日	会津美里町	19名
	12月6日	会津坂下町	5名
南会津	8月29日	下郷町	26名
相双	6月16日	川内村	9名
	10月7日	南相馬市	11名
	11月11日	浪江町	37名
いわき	7月4日	いわき市	34名
	7月6日	いわき市	29名
	7月8日	いわき市	33名
	11月22日	いわき市	68名

合計 16 か所 参加者 386 名

8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和4年10月13日(木)～14(金)

※ 第44回全国公民館研究集会 令和4年度東北地区社会教育研究大会 第67回東北地区公民館大会福島大会(兼) 令和4年度福島県社会教育研究集会 第71回福島県公民館研究集会として開催

(2) 参加対象 公民館職員等

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日 令和4年6月15日(水)～8月9日(火)

ウ 受講者数 15名

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和4年7月15日(金)～8月19日(金)

b B講習 令和5年1月13日(金)～2月17日(金)

(ウ) 受講者数

a A講習 2名

b B講習 4名

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
公民館職員専門講座	9月12日(月)～16日(金)	2

10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.343	社会教育	A4	10	Web掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 地域学校協働本部事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校と地域が相互に連携・協力を進めるとともに、互いの役割を明確に認識し対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す。

(2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回 令和4年7月

第2回 令和5年1月

第3回 令和5年3月

イ 推進委員会の開催

第1回 令和4年7月

第2回 令和5年1月

ウ 地域学校協働研修会の実施

期日：令和5年2月3日(金)～14日(火)

※動画配信による開催

講話：文部科学省コミュニティ・スクールマイスター

安齋 宏之

実践発表：大玉村立大玉中学校長 安田 浩明

実践発表：川内村教育委員会 教育課 生涯学習係長

猪狩 直志

実践発表：須賀川市 家庭教育 インストラクター

内山 美佐子 佐藤 幸江

池田 朋美 遠藤 千夏

エ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

(ア) 期日：令和5年2月15日(水)

(イ) 会場：ビッグパレットふくしま

(ウ) 参加者数：72名

(エ) 内容

・基調講演 「甲子園への道」

学校法人聖光学院 聖光学院高等学校 副校長 斎藤 智也

・グループ協議

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について」

「放課後等の学習支援・体験活動(放課後子ども教室

・地域未来塾等) について」

「家庭教育支援活動について」

(3) 市町村等事業

38の市町村（川俣町、国見町、二本松市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、石川町、田村市、三春町、小野町、白河市、西郷村、矢吹町、棚倉町、塙町、矢祭町、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、南会津町、下郷町、只見町、相馬市、南相馬市、浪江町、葛尾村、双葉町、富岡町、川内村、檜葉町、広野町）と1NP0に59の地域学校協働本部が設置され実施した。

2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数 15,064 件（累計）
- イ 被災地図書館支援事業
移動図書館（あづま号）による資料貸出
稼働 18 回 貸出 3,787 冊
（実施場所 飯館村、檜葉町ほか 計 28 か所）

第4節 家庭教育

1 地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進するとともに、地域の実情に即して、学校や地域、行政機関や福祉機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する「家庭教育支援チーム」の設置を促進した。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会
第1回 令和4年6月3日（金）
第2回 令和5年2月16日（木）
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議
各教育事務所域内（7地区）
- ウ 家庭教育応援企業推進活動
連携企業数

県北地区	2社	(193社)
県中地区	3社	(256社)
県南地区	0社	(73社)

会津地区	3社	(158社)
南会津地区	0社	(66社)
相双地区	0社	(10社)
いわき地区	47社	(317社)
計	55社	(1,073社) ※（）累計

エ 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・川俣町PTA協議会 60名
令和4年10月27日（木）
- ・伊達市立伊達中学校PTA 350名
令和4年11月11日（金）

【県中地区】

- ・須賀川市立大森小学校PTA 55名
令和4年11月7日（月）

【県南地区】

- ・白河市立五箇小学校PTA 98名
令和4年6月29日（水）
- ・塙町立塙小学校PTA 211名
令和4年12月9日（金）

【会津地区】

- ・喜多方市立第一小学校PTA 47名
令和4年6月11日（土）
- ・湯川村立湯川中学校PTA 115名
令和4年12月10日（土）

【南会津地区】

- ・南会津町立館岩小・中学校PTA 41名
令和4年12月14日（水）

【相双地区】

- ・新地町立新地小学校PTA 178名
令和4年7月1日（金）

【いわき地区】

- ・いわき市立豊間小学校PTA 88名
令和4年7月1日（金）
- ・いわき市立磐崎中学校PTA 163名
令和4年11月17日（木）
- ・いわき市立西小名浜幼稚園PTA 45名
令和4年12月21日（水）

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

- ア 家庭教育支援者全県研修 69名
令和4年9月20日（火）～11月30日（水）
オンデマンド研修(YouTube)
- ・講演
「ヤングケアラーを知っていますか？～家庭教育支援に求めるもの～」
一般社団法人ヤングケアラー協会 理事 高垣内 文也
- ・シンポジウム
「コロナ禍で見えてきた～これからの家庭教育支援」
コーディネーター 福島大学地域未来デザインセンター
客員教授 本多 環

- ① 実践発表1 「家庭・学校・地域の連携」
西会津町家庭教育相談室 こころのオアシス家庭教育
教育コーディネーター兼教育相談員 紫藤真理子
- ② 実践発表2 「点から線へ ママ達の連携 居場所
づくり」
一般社団法人Mother Tree 代表理事 宮崎 恵美
- ③ 実践発表3 「わたしの居場所 KAKECOMI
～これまでとこれから～」

KAKECOMI代表・ソーシャルワーカー 鴻巣 麻里香

・分科会講演

「ネットにハマる子ども達～今私たち大人が考えて
おくべきこと～」

ぼよぼよクリニック 院長 田草 雄一

イ 家庭教育支援者地区別研修 7地区 242名

【県北地区】

令和4年11月16日（水）福島市中町ビル 18名

【県中地区】

令和4年12月4日（日）郡山市労働福祉会館 36名

【県南地区】

令和5年2月28日（火）矢吹町複合施設KOKOTTO 38名

【会津地区】

令和4年8月31日（水）会津若松市北会津公民館 32名

【南会津地区】

令和4年11月26日（土）南会津町御蔵入交流館 26名

【相双地区】

令和5年2月1日（水）環境放射線センター 31名

【いわき地区】

令和4年11月4日（金）いわき市文化センター 61名

- ・ボランティアの活動を推進する研修に関すること
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査
に関すること
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関す
ること

イ 地域本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関すること
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティ
ア人材バンク」の活用に関すること
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関すること
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関
すること
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整
に関すること
- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連
絡調整に関すること

ウ 市町村本部の設置

(ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・
市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

(イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談
及びコーディネートに関すること
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況
の把握に関すること
- ・域内各学校との連携に関すること

エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

(ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

(イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関すること
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関す
ること
- ・学校と地域が連携した取組の充実に関すること
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働
推進委員会に関すること

オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児
童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材
の登録を行う。

第5節 青少年教育

1 福島県地域学校協働本部

(1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランテ
ィア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動や
ボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連
携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開する
ことにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人
間性を育むことを目的とする。

(2) 内容

ア 県本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習
支援等ボランティア等(以下「ボランティア」という。)
の登録促進に関すること

2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1) 目的

日常生活や自然・社会体験活動などの共通体験を通して感じた思いや願い、震災を乗り越えてきた体験や、ふくしまへの想いなどについて、子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、十七音で綴った作品を県内外から募集し、広く発信することで、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

(2) 内容

ア 応募期間 令和4年6月13日(月)～8月31日(水)
 イ 応募総数 42,635組
 ウ 第一次審査 令和4年9月16日(金)～29日(木)
 エ 第二次審査 令和4年10月19日(水)自治会館
 オ 最終審査 令和4年11月8日(火)教育総務課分室
 カ 表彰式 令和4年12月10日(土)

キ 入賞数 キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)
 絆部門・ふるさと部門
 最優秀賞各5組、優秀賞各5組、
 佳作各10組

ク ワークショップ 希望する学校に講師を派遣し実施

(ア) 令和4年6月9日(木)

いわき市立中央台南小学校 第5学年20名
 講師 いわき震災伝承みらい館 いわき語り部の会
 小野 浩氏

(イ) 令和4年7月5日(火)

塙町立塙小学校 第6学年50名
 講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好氏

(ウ) 令和4年7月12日(火)

会津若松市立神指小学校 全校児童72名
 講師 会空代表 庄子 ヤウ子氏

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、社会教育課 Twitter に掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、全応募者、後援団体等への作品集配布や社会教育課 note、YouTube、Twitter、Instagram、県庁パネル展示等により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

(1) 福島県子ども読書活動推進会議

【第1回】令和4年6月22日(水)

ふくしま中町会館 6階 特別会議室

【第2回】令和5年2月7日(火)

杉妻会館 3階 百合A

ア 目的

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
佐藤 彰	福島県高等学校PTA連合会副会長	社会教育関係者
橋本ゆかり	福島県学校図書館協議会長	学校図書館関係者
籠田まき子	小野町ふるさと文化の館副主幹	公立図書館等関係者
武田 繁子	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
藍原恵美子	NPO法人夢ネットワーク理事長	読書活動に係るボランティア団体関係者
桑原 真希	平田村立ひらたこども園保育教諭	保育所・幼稚園等の関係者

(2) 読書活動支援者育成事業

【県北地区】 令和4年7月2日(土)

自治会館 受講者34名

【県中地区】 令和4年6月21日(火)

郡山市労働福祉会館 受講者68名

【県南地区】 令和4年11月2日(水)

新白信ビル(白河市) 受講者37名

【会津地区】 令和4年8月5日(金)

会津若松市文化センター 受講者41名

【南会津地区】 令和4年10月18日(火)

モノとくらしのミュージアム(只見町) 受講者17名

【相双地区】 令和4年7月27日(水)

環境放射線センター(南相馬市) 受講者30名

【いわき地区】 令和4年7月12日(火)

いわき市文化センター 受講者54名

令和4年9月9日(金)

いわき合同庁舎 受講者47名

(3) 読書活動推進委託事業

○「発達段階に応じた読書活動研修会」

期日 令和4年9月10日(土)

場所 国立磐梯青少年交流の家 受講者55名

内容 発達段階に応じた読書研修会

講義 「想いは絵本から。～読み重ねる大切さ～」
ぶれあ保育園・南行徳 保育士 田中 雄人

講義 「未来につながる読書環境 ～子どもと本を結ぶ
南相馬市立中央図書館のアウトリーチサービス～」
南相馬市立中央図書館 主任司書 佐藤 真紀

講義 「読書を含む活字情報採取の変容が子どもの社会化に
及ぼす影響～調査データの分析結果に基づく考察～」
東京学芸大学教育学部 准教授 腰越 滋

優秀賞 福島県立四倉高等学校 伊藤 美姫
「47 都道府県女ひとりで行ってみよう」

福島東稜高等学校 加藤 愛莉
「不純文学 1 ページで綴られる先輩と私の不思議な物語」

福島東稜高等学校 佐川 純華
「夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く」

パネルディスカッション

「切れ目のない読書支援に必要なことは？」

コーディネーター

福島大学人間発達文化学類教授

福島大学附属小学校校長 佐藤 佐敏

パネリスト

東京学芸大学教育学部准教授 腰越 滋

南相馬市立中央図書館主任司書 佐藤 真紀

ぶれあ保育園・南行徳保育士 田中 雄人

○「オンラインによる読み聞かせとワークショップ」

〈幼児対象〉

期日 令和4年12月14日(水)

対象 大玉村立大山幼稚園 受講者 137 名

講師 南相馬市立中央図書館主任司書 佐藤 真紀

内容 Zoomを活用したオンラインによる指遊びの実演と
読み聞かせ

〈児童対象〉

期日 令和4年12月15日(木)

対象 平田村立蓬田小学校 第3学年

南相馬市立八沢小学校 第3学年 受講者 37 名

講師 科学読物研究会 坂口 美佳子

内容 Zoomを活用した読み聞かせの実演と複数校の児童
による読書についてのワークショップ

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期日 令和4年12月3日(土)

場所 とうほう・みんなの文化センター

参加者 発表者 15 名 (中学生 10 名、高校生 5 名)

観戦者 118 名

【中学生の部】

優 勝 西会津町立西会津中学校 横山穂乃佳

「三日間の幸福」

準優勝 猪苗代町立猪苗代中学校 野口 愛姫

「世界のへんな肉」

優秀賞 福島市立平野中学校 阿部 葵

「ふたご」

白河市立表郷中学校 深谷 伊吹

「ボトルネック」

【高校生の部】

優 勝 福島県立相馬農業高等学校 佐々木海渡

「奴隷の哲学者エピクテトス 一人生の授業」

準優勝 福島県立会津高等学校 折笠 遥南

「金の角持つ子どもたち」

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	八木沼 智恵子	須賀川市教委生涯学習スポーツ課内 須賀川市八幡町135	熊田 保	S46.9.13
いわきユネスコ協会	佐久間 静子	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	沢 宏一	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	倉又 晴男	学校法人尚志学園本部内 郡山市大槻町字垣ノ腰2	橋本 裕	S53.1.24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	近内 友明	S53.11.19
福島ユネスコ協会	黒澤 宜昭	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	宗川 孝	S55.7.19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55.11.16
郡山次世代ユネスコ協会	鈴木 淳弥	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市函景2-9-3	吾妻 寛典	H28.1.16
福島県ユネスコ連絡協議会	小野 利廣	福島市方木田字辻51-12 矢吹 稔宅	矢吹 稔	S56.12.5

2 福島県ユネスコ活動研修会

令和4年11月22日(火) 郡山市 郡山健康科学専門学校 参加者 29名

第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

1 ふくしまキッズパワーアップ事業

(1) 内容

対象者 福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間 令和4年4月1日(金)～令和5年2月28日(火)

実施内容 ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

イ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型(3泊4日以上)の自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

補助について ①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

(2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：164件 参加者：8,347名 (うち 子ども7,527名)

イ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：0件 参加者：0名 (うち 子ども0名)

2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

(1) 内容

事業1 元気を届ける交流・体験事業

事業2 今を知り思いを伝える事業

(2) 実績

応募団体 24団体

採択団体 24団体

補助金額 27,646千円

3 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

(1) 内容

対象者 県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間 令和4年5月12日(木)～令和5年2月28日(火)

実施内容 県内3自然の家(郡山・会津・いわき)を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

(2) 実績

○郡山自然の家

実施日	主な内容	参加者数
5月18日(水)	自然散策、農業体験	児童生徒、保護者 16名
9月24日(土)	フロッカー、室内アスレチック等	児童生徒、保護者 11名
10月22日(土)	自然散策、デジタルイラスト作画体験等	児童生徒、保護者 14名
11月12日(土)	スウェーデントーチ、ディスクゴルフ	児童生徒、保護者 17名
12月10日(土)	クリスマスリースづくり	児童生徒、保護者 16名

○会津自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月10日(日)	ハンバーガー作り、カヌー	児童生徒、保護者 8名
7月22日(金)	手打ちうどん作り、ニュースポーツ	児童生徒、保護者 22名
8月3日(水)	ストーンペイント、アスレチック	児童生徒、保護者 22名
9月22日(木)	アスレチック、木工クラフト	児童生徒、保護者 18名
9月25日(日)	ジャンボプリン作り、アスレチック	児童生徒、保護者 11名
10月4日(火)	クレープ作り、ツリークライミング	児童生徒、保護者 7名
10月18日(火)	アップルパイ作り、自然観察	児童生徒、保護者 13名
10月26日(水)	立川ごぼう収穫体験	児童生徒、保護者 18名
11月15日(火)	パフェ作り、ニュースポーツ	児童、保護者 11名

○いわき海浜自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月1日(金)	磯遊び、クラフト活動	児童生徒、保護者 17名
9月18日(日)	釣り、交流ゲーム、クラフト	児童生徒、保護者 3名
10月21日(金)	野外炊飯、クラフト活動	児童生徒、保護者 24名
11月19日(土)・20日(日)	ハイキング、ニュースポーツ、クラフト	児童生徒、保護者 7名
2月3日(金)	古民家体験、餅つき、節分行事	児童生徒、保護者 26名

第10節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養山1	024-535-3218	福島県

イ 市町村立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町1-1	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町1-20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1(こむこむ内)	024-526-4200	福島市
伊達市立図書館	伊達市箱崎字川端7	024-551-2132	伊達市
二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地	0243-55-3255	二本松市
本宮市立しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500	0243-44-2112	本宮市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目 5-25	024-923-6601	郡山市
郡山市中央図書館田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼 40-3	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原 1	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目 1-21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館日和田分館	郡山市日和田町字小堰 23-4	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館三穂田分館	郡山市三穂田町八幡字東屋敷 6	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館中田分館	郡山市中田町下枝字大平 358	024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館西田分館	郡山市西田町三丁目桜内 259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館大槻分館	郡山市大槻町字中前田 56-1	024-951-1512	郡山市
郡山市中央図書館熱海分館	郡山市熱海町熱海二丁目 15-1	024-984-2679	郡山市
郡山市中央図書館湖南分館	郡山市湖南町福良字家老 9390-4	024-983-2543	郡山市
郡山市中央図書館富田分館	郡山市東三丁目 84 番地	024-951-0260	郡山市
郡山市中央図書館逢瀬分館	郡山市逢瀬町多田野字南原 3 番地	024-957-2417	郡山市
郡山市中央図書館片平分館	郡山市片平町字南 7-2	024-957-5730	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘 1-5	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目 38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181-1	024-921-0030	郡山市
須賀川市中央図書館	須賀川市中町 4-1	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町 85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前 22	0248-65-3549	須賀川市
国見町図書館	国見町大字藤田観月台 15	024-585-2676	国見町
鏡石町図書館	鏡石町旭町 440-6	0248-62-1288	鏡石町
石川町立図書館	石川町字関根 165	0247-26-9136	石川町
浅川町立あさかわ図書館	浅川町大字箕輪字山敷田 75	0247-36-2900	浅川町
古殿町図書館	古殿町大字松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
三春町民図書館	三春町字大町 12-1	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田 19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 48-1	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字水神宮 62-1 大越行政局内	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏 1	0247-77-2013	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町 33-4	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路 96-5	0248-23-3250	白河市
白河市立表郷図書館	白河市表郷金山字長者久保 2	0248-32-4784	白河市
白河市立東図書館	白河市東釜字子狐内 47	0248-34-1130	白河市
白河市立大信図書館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町本町 165	0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字新町 21-1	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 68-6	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-1	0247-29-1150	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町 3-50	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書館	猪苗代町字古城町 132-7	0242-23-7855	猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7503-1	0241-22-1855	喜多方市
会津美里町図書館	会津美里町字新布才地 1	0242-54-2911	会津美里町
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 22	0241-62-5522	南会津町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 65-16	0244-37-2630	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 40-1	0244-62-5031	新地町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目7-1	0244-23-7789	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田22-1	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目89-1	0244-44-3049	南相馬市
浪江町図書館	浪江町権現堂字矢沢町40-1	0240-23-5613	浪江町
双葉町図書館(休館中)	双葉町大字長塚字鬼木1	0240-33-4214	双葉町
大熊町図書館(休館中)	大熊町大川原南平1717	0240-23-7532	大熊町
富岡町図書館	富岡町大字本岡字王塚622-1	0240-21-3665	富岡町
いわき市立いわき総合図書館	いわき市平字田町120	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下40-1	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜愛宕上7-2	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田1-1	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町一丁目2-2	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目50	0246-32-5980	いわき市

ウ 法人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成6丁目346-1	024-932-2118	公益財団法人金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山1	024-531-5511	福島県	美術博物館	59.7.16
福島県立博物館	会津若松市城東町1-25	0242-28-6000	福島県	総合博物館	61.11.28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町6	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	46.7.10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4-4	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	59.9.3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地130-2	024-956-2200	郡山市	美術博物館	平5.1.20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	平8.5.9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	29.10.21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田33-1	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	55.10.3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下33	0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館	歴史博物館	63.6.30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山3692-20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	平21.6.16
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰1093-23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	平11.8.17
藤田記念博物館	白河市二番町46-1	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	54.9.1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田1	0248-79-4811	(公財)DNP文化振興財団	美術博物館	平25.12.25

イ 博物館相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	指定年月日
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	平11.9.28
龍が城美術館(休館中)	いわき市平字旧城跡27-1	0246-22-1601	(一財)白龍会	美術博物館	30.2.10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内1	0242-28-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	56.11.25
安積歴史博物館	郡山市開成5-25-63	024-938-0778	(公財)安積歴史博物館	歴史博物館	59.9.8
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰1093-36	0241-32-2888	(株)ゴールドハウス目黒	科学博物館	平5.7.1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山10番地	0242-75-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	平12.11.28
はじまりの美術館	猪苗代町新町4873	0242-62-3454	(福)安積愛育園	美術博物館	平28.12.6

ウ 類似施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町50	0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段86	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町5-54	024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館(福島市資料展示室)	福島市松山町39-1	024-563-7858	福島市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古閑裕而記念館	福島市入江町1-1	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町11-36	024-523-1201	福島市
宮畑遺跡史跡公園体験学習施設	福島市岡島字宮田78	024-573-0015	福島市
羽山の森美術館	川俣町大字西福沢字山枡内20	024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町10	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇265	024-575-1615	伊達市
霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町1-102	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町36	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町2-3-1	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵183	0243-48-2569	大玉村
本宮市立歴史民俗資料館	本宮市字南町裡130	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎494-44	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成3-3-7	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山1-8-3	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町3-5	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前2-11-1 ビッグアイ20F~24F	024-936-0201	郡山市
鏡石町歴史民俗資料館	鏡石町成田343	0248-62-4323	鏡石町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石1-2	0248-81-1030	天栄村
石川町立歴史民俗資料館	石川町字高田200-2	0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地144-6	0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下287	0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷5	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町30	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通2	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前196番地	0247-81-1215	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田7-1	0248-27-2310	白河市
小峰城歴史館(旧 白河集古苑)	白河市郭内1-73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館(義秀展示館)	白河市大信町屋字沢田25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田25	0248-46-3614	白河市
西郷村歴史民俗資料館	西郷村大字小田倉字上野原463	0248-25-0959	西郷村
矢吹町ふるさとの森芸術村	矢吹町大池243-2	0248-42-4506	矢吹町
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館24-9	0248-53-4777	泉崎村
塙町立あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元86-2	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村歴史民俗資料館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作128-4	0247-49-3106	鮫川村
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町8-1	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣郷土博物館	会津若松市追手町1-1	0242-27-4005	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町1-1	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町2-8-8	0242-22-8686	会津若松市
会津若松市歴史資料センター	会津若松市城東町2-3	0242-27-2705	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸3447-4	0242-72-1135	猪苗代町
喜多方市美術館	喜多方市字押切2-2	0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂3163	0241-44-2024	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっとinやないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙151-1	0241-41-1077	柳津町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原1	0241-58-1677	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲4681	0241-62-3848	南会津町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
奥会津博物館南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津博物館館岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
奥会津博物館伊南館	南会津町青柳字久川 24	0241-76-2071	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887-1	0241-75-2342	檜枝岐村
相馬市歴史資料収蔵館	相馬市中村字北町 51-1	0244-37-2191	相馬市
埴谷・島尾記念文学資料館	南相馬市小高区本町 2 丁目 89-1	0244-66-1011	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 16	0240-29-2008	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町 27-1	0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町歴史民俗資料館	富岡町大字本岡字王塚 622-1	0240-22-2626	富岡町
檜葉町歴史資料館	檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4	0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田 3-1	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢 6-1	0246-65-6166	いわき市
いわき市アンモナイトセンター	いわき市太久町大久字鶴房 147-2	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐藤原町手這 50-1	0246-43-0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1-39	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1	0246-83-2901	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16	0246-29-2230	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚 3-183	024-593-0639	公益財団法人
桑折町種徳美術館	桑折町字陣屋 12	024-582-5507	桑折町
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内 41	024-971-3900	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台 100	0248-89-1120	公益財団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町 4761	0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹 7294-4	0241-24-3576	私人

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

ア 県設置

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 53	0246-32-7700	福島県

イ 教育施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火 6-1	0248-36-2331	独立行政法人
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原 7136-1	0242-62-2530	独立行政法人
市町村（条例）設置	※13 施設（別掲）		
他県設置等	※3 施設（別掲）		

《市町村（条例）設置 13 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋 53-5	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作 1	024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館	福島市早稲町 1-1	024-524-3131	福島市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒 82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 112	024-982-2115	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森 20	0248-79-2187	須賀川市
石川町勤労青少年ホーム	石川町字当町 418-1	0247-26-2566	石川町
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原 1-1	0247-46-2162	矢祭町
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町 14-52	0242-26-6662	会津若松市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
会津若松市少年の家	会津若松市城東町 15-62	0242-39-1304	会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園（休館中）	猪苗代町字琵琶沢原 7095	0242-62-3291	猪苗代町

《他県設置等3施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
一般財団法人小野田自然塾	東白川郡埴町大字片貝字長久木先 384	022-281-8228	一般財団法人
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847-1	0241-78-2311	さいたま市
ばんだいふれあいぴあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-336	0241-33-2567	公益財団法人

2 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第11節 福島県立図書館

1 概要

福島県立図書館は、県民の生涯にわたる多様な学習活動に因るため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

また、令和4年3月に『福島県立図書館アクションプラン（第4次）』（令和4年度～令和6年度）を策定し、基本理念と4つの目標に基づき、読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、令和2年2月に策定された「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年度から概ね5年間）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

なお、令和4年度は、令和3年2月及び令和4年3月に発生した地震被害からの復旧工事のため、令和4年5月9日（月）から7月7日（木）までの期間、休館した。

(1) 図書館協議会

開催日 令和4年11月22日（火） 於：福島県立図書館 議題等

- ・福島県立図書館の概要について

- ・「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」の取組状況について

- ・令和4年度図書館利用実績について

図書館協議会委員名（令和5年3月31日現在）

[任期：令和3年10月21日～令和5年10月20日]

区分	氏 名	所属団体等（主な役職名等）
学 識 経 験 者	◎井實 充史	福島大学（人間発達文化学類教授）
	三瓶 千香子	桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授 生涯学習センター長・地域連携センター長）
	渡部 育夫	株式会社福島民報社 （編集局次長兼文化部長）
	菅野 隆一	福島民友新聞株式会社 （論説委員会副委員長）
	岩本 夏海	公募
	高橋 正人	公募
家庭 教育	高橋 明子	福島県家庭教育インストラクター連絡 協議会（喜多方市教育委員会教育委員）
社会 教育	佐藤 美千代	福島県公共図書館協会 （新地町図書館管理係長兼司書）
学 校 教 育 関 係	○橋本 忠広	福島県高等学校長協会 （福島県立須賀川桐陽高等学校長）
	星野 亜紀	福島県中学校長会 （白河市立大信中学校長）

◎会長 ○副会長

(2) 「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」

令和4年度～令和6年度

ア 基本理念

「ふくしまの未来をひらくため、『知の拠点』として県内図書館ネットワークを支え、県民一人ひとりの夢と学びを応援します。」

福島県立図書館は、県民に対する資料の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等のサービスの向上に努めます。

また、市町村図書館（未設置自治体にあつては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、資料を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。

さらに、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子どもたちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよ

う支援します。

こうした取組により、「知の拠点」として、県民の課題解決を図るとともに、ふくしまの復興を文化・情報面から支え、ふくしまの未来をひらいていくための一翼を担います。

イ 福島県立図書館が目指す4つの目標

基本理念の実現に向けて、「福島県立図書館が目指す4つの目標」を定め、これに向けた取組を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染予防、新しい生活様式への対応をふまえ、図書館サービスを①非来館サービス（図書館に行かなくても利用できるサービス）の推進、②デジタル情報の発信、③図書館間ネットワークの強化、の3つの視点から充実させていきます。

(7) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料・情報を収集し、保存し、提供することで、県民の役に立つ図書館を目指すとともに、年齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる県民が等しく利用できる図書館を目指します。

(4) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う子どもたちのために、資料を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

(7) 市町村(図書館・公民館等)を支える図書館

県民がどこにいても図書館に親しみ、また、生活、学習、事業などに必要な資料を利用できるように、県内の図書館・公民館・学校を支え、ネットワーク体制を強化し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

(1) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の資料・情報を収集し、保存し、発信することで、将来にわたり、いつでも、どこにいても「ふくしま」を知ることができる図書館を目指します。

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものや年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内Webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても、新聞等での出版情報収集に努めた。

ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

エ 児童資料・研究資料の収集

(7) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、探究型学習に対応するもの、ユニバーサルデザインや多文化に対応する資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

(4) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や県内図書館の求めに対応できる資料を幅広く継続収集した。

また、当館ホームページを改善し、購読している雑誌を探しやすくした。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、子どもたちの多様な好奇心に応えることができる児童書や話題性の高い文芸書、生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区 分	購 入	寄贈・他	計
新 聞	25	45	70
雑 誌	230	695	925
官 報 等	3	0	3
合 計	258	740	998

資料受入状況

(単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	4,201	1,717	5,918
地域・行政資料	885	3,613	4,498
児 童 資 料	1,988	254	2,242
児童図書研究資料	325	145	470
市町村支援資料	1,228	1,124	2,352
合 計	8,627	6,853	15,480

資料受入状況・推移

(単位：冊)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
19,923	18,921	15,480

キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和4年度は、4団体（企業）から合計471冊の寄贈を受けた。

蔵書統計（資料別・分類別）

(単位：冊)

分 類	区 分	3年度累計	4年度増加	4年度除籍	利用替え	4年度累計
一般資料	0 総 記	32,161	254	2	0	32,413
	1 哲 学	27,262	294	12	13	27,557
	2 歴 史	67,867	658	13	23	68,535
	3 社会 科学	113,360	1,450	39	-11	114,760
	4 自然 科学	39,786	609	8	10	40,397
	5 工 学・工 業	38,478	544	7	21	39,036
	6 産 業	30,611	439	4	5	31,051
	7 芸 術	44,269	631	11	7	44,896
	8 語 学	10,042	129	5	-11	10,155
	9 文 学	96,718	910	20	33	97,641
	計	500,554	5,918	121	90	506,441
地域資料	0 総 記	19,685	331	0	0	20,016
	1 哲 学	2,975	37	0	1	3,013
	2 歴 史	41,219	728	3	2	41,946
	3 社会 科学	71,457	1,534	2	-3	72,986
	4 自然 科学	10,964	251	0	-1	11,214
	5 工 学・工 業	16,414	413	2	3	16,828
	6 産 業	23,995	440	4	5	24,436
	7 芸 術	18,760	367	1	5	19,131
	8 語 学	959	9	0	0	968
	9 文 学	30,290	388	1	11	30,688
	計	236,718	4,498	13	23	241,226
児童資料	研 究 資 料	38,894	470	5	277	39,636
	児 童 図 書	126,027	2,242	560	701	128,410
	計	164,921	2,712	565	978	168,046
逐次刊行物	雑 誌	184,553	4,670	169	20	189,074
	新 聞 合 本	15,953	205	0	0	16,158
	新聞記事ファイル	3,839	0	0	0	3,839
	計	204,345	4,875	169	20	209,071
特 殊 文 庫	70,280	0	0	0	70,280	
館 内 用 計	1,176,818	18,003	868	1,111	1,195,064	
市 町 村 支 援 計	61,725	2,352	4,877	-1,111	58,089	
合 計	1,238,543	20,355	5,745	0	1,253,153	

3 館内奉仕

開館日は237日、入館者は115,329人、1日平均487人の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための館内利用の制限、また、令和3年2月及び令和4年3月の福島県沖地震により被害を受けた建物の復旧工事のため、令和4年5月9日(月)から7月7日(木)まで休館となり、開館日は前年度比で44日少なく、入館者数も前年度比において1万9千人の減であった。

入館者数

開館日数	237日
入館者数	115,329人
(1日平均)	487人

入館者数・推移

(単位：人)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
113,657	134,601	115,329

(1) 調査相談(レファレンス)

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けた。総件数は前年度より約3,700件減少した。また、当館のホームページについては、「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。

調査相談件数

(単位：件)

	一般・地域・逐刊資料	児童資料	小計
口頭	5,549	1,257	6,806
電話	1,032	39	1,071
文書	84	0	84
FAX	24	0	24
電子メール	211	1	212
合計	6,900	1,297	8,197

調査相談件数・推移

(単位：件)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
9,755	11,932	8,197

ホームページアクセス件数

(単位：件)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
トップページ	253,502	190,775	144,742
蔵書検索	832,584	650,242	848,379
横断検索	404,357	28,237	25,768
デジタルライブラリー	5,070	2,931	2,372
こどものへや	5,462	2,783	2,012
利用案内	14,202	11,267	9,391

注) 令和3年1月より情報ネットワークシステムが新システムへ移行したことにより、ホームページへのアクセスの集計方法が変更となっている。

(2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第4次)」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前年度に続き閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と咳エチケット等の呼びかけに努めたほか、返却された資料や、利用者が使用する端末、カウンター周り等のアルコール消毒を実施した。

(3) 館外個人貸出

貸出冊数は147,545冊、貸出者数は延べ35,814人で前年度から増加した。登録者数は12,732人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス(有料)の利用は、6件、43冊と前年度比で件数、冊数とも減少した。

館外個人貸出状況

分類	冊数(冊)	構成比(%)
総記	1,967	1.3
哲学・宗教	4,352	2.9
歴史・地理	5,857	4.0
社会科学	11,007	7.5
自然科学	6,688	4.5
工学・工業	6,723	4.6
産業	3,507	2.4
芸術	6,753	4.6
語学	1,471	1.0
文学	19,895	13.5
地域資料	6,325	4.3
新聞雑誌	6,572	4.4
小計	81,117	55.0
児童	66,428	45.0
合計	147,545	100.0

館外個人貸出状況・推移

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
冊数(冊)	143,296	173,191	147,545
のべ人数(人)	35,146	42,551	35,814

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)(単位：人)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	合計
新規	2,572	3,188	3,047	8,807
更新者	1,134	1,417	1,374	3,925
合計	3,706	4,605	4,421	12,732

館外個人貸出登録者数・推移

(単位：人)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
12,942	12,889	12,732

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数(件)	冊数(冊)
官公庁関係	1	1
図書館その他	12	12
会社・事業所	24	239
報道関係	0	0
学校	21	40
計	58	292

特別貸出状況・推移

(単位:冊)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
330	389	292

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「『いつかは読むつもり…』の本展」を実施した。ミニ展示としては、「子どもたちの教科書を見てみよう!」、「徳川家康とその時代」を実施した。ほかに、ビジネス関連資料、認知症、感染症に関する展示を行っている。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「物価・地価を調べる」「日本文学を学ぶ〈近・現代編〉」「まちづくり・地域づくり」「茶の湯を愉しむ」「自然災害に備える本」を改訂し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和4年4月30日(土)には「福島県立図書館見学探検ツアー」を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した(参加者9名)。また令和4年11月3日(木)には「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」(参加者7名)と「長田弘文庫見学会」を実施した(参加者3名)。

(6) 地域資料

企画展示は「福島の火山と防災～吾妻山噴火から130年～」展を開催した。また、ミニ展示として隣接する美術館の企画展に合わせた「亜欧堂田善～行政資料を中心に～」展や、東日本大震災福島県復興ライブラリー出張展示セット見本展示を実施した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近10年の受賞作を展示した。ほかに「福島県内の自治体広報誌リスト」を改訂した。

また、『平県古地図』ほか劣化により原資料での利用が難しいものを中心に貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいう、図書や雑誌の目次入力を継続的に実施した。

(7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和4年度版)については、大熊町、双葉町の2町以外から回答を得て発行した。

令和4年11月12日(土)に、「司書が教える新聞記事の調べ方講座」を開催し、13名が参加した。当館職員を講師として新聞記事の調べ方や便利なデータベースを使った調査法を案内した。実際に新聞記事を活用した調べ方演習を行い、好評を博した。

開始前には、国立国会図書館の歴史的音源の紹介と演奏を行ったほか、終了後に希望者向けに図書館見学ツアーを行った。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「働くを考える」「本をつくる・わたす・すすめる」及び「Made in Japan」など、社会情勢に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「ふるさと」の新聞・新聞記事を調べる」「新聞連載記事で見る『SDGs』」を新規で作成した。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」・「子ども向け講座」を開催した。

・「ちいさなおはなしかい」(4月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月)

参加者合計 117名

・「つくってあそぼう!かがくのおはなしかい」(令和4年11月3日(木))

参加者 19名

・「放課後おはなしかい」(令和5年1月26日(木))

参加者 2名

・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(令和4年9月23日(金))を実施した。

参加者 13名

・「クリスマスミステリーツアー」(令和4年12月17日(土))

参加者 18名

・「春のミステリーツアー」(令和4年4月30日(土))を実施した。

参加者 15名

・福島を生きる講座(令和4年12月10日(土))

参加者 21名

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者 425 名

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

オ パスファインダーの発行

「本の森への道しるべ」では、「ふくしまのこどもたちへ 福島県『優良書籍』」を改訂し、「東日本大震災・原発事故を題材にした絵本」を作成した。

カ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための育児関連図書のコーナーを設置した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成 24 年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和 5 年 3 月 31 日現在で 15,064 タイトルとなっており、「震災復興ライブラリー増加資料一覧」（令和 5 年 3 月 31 日現在）を作成し、ホームページで公開した。

さらに、福島民報及び福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和 4 年 3 月 31 日現在で更新し、同年 7 月 1 日（金）にホームページへ掲載した。

そのほか「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。令和 4 年度は、県中教育事務所（令和 4 年 6 月 21 日（火））で出張展示が開催された。令和 4 年 11 月には、出張展示用セットに「農林水産業と復興」「新しい産業と復興」の 2 種類のテーマを追加し、併せてミニ展示を行い、出張展示のご案内のチラシを改訂した。

(10) 複写サービス

コイン式コピー機は 1 台、レーザープリンター 1 台、カラープリンター 1 台、マイクロプリンター 2 台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区 分	件数 (件)	枚数 (枚)
自・他館処理	2,574	38,783

複写利用状況・推移 (単位：枚)

令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
33,667	43,519	38,783

(11) 障がい者サービス

障がい者サービスの案内を作成し、関連施設等に配布した。また、「福島県立図書館所蔵 大活字コーナー資料リスト」を改訂した。国立国会図書館視覚障がい者等用データ送信サービスの送信承認館になった。

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に 6 台設置し、情報提供の便宜を図った。6 台のうち 2 台は、短時間の利用ができるように申し込みをせずに利用可能としている。

インターネット利用状況 (単位：人)

区 分	一 般	児 童	合 計
人 数	1,160	0	1,160

インターネット利用状況・推移 (単位：人)

令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
2,237	1,348	1,160

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 『エリック・カール 絵本の世界』

(令和 4 年 4 月 8 日（金）～5 月 8 日（日））

令和 3 年 5 月に亡くなった世界的絵本作家エリック・カール氏の絵本を展示した。

(イ) 『線路がつなげた 150 ぶんの 40～鉄道開業 150 年・東北新幹線開業 40 年～』

(令和 4 年 7 月 8 日（金）～8 月 31 日（水））

鉄道開業 150 年、東北新幹線開業 40 年に合わせ、明治時代の蒸気機関車に始まり現代の新幹線へつながる関連資料を展示した。

(ウ) 「福島イノベーション・コースト構想」

(令和 4 年 9 月 2 日（金）～10 月 5 日（水））

(公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構と連携した展示。福島イノベーション・コースト構想について、パネルや現物を用いて紹介。

(エ) 「福島県歴史資料館移動展示『ドラマになった福島ゆかりの人々五代友厚・渋沢栄一・古閑裕一』」

(令和 4 年 10 月 7 日（金）～11 月 3 日（木））

福島県歴史資料館による展示。所蔵のドラマになった福島に関わる人物の貴重資料などを展示。

(オ) 『まほろん「戦後ふくしまの考古学」』

(令和 4 年 11 月 5 日（土）～11 月 30 日（水））

福島県文化財センター白河館（まほろん）による展示。福島県学生考古学会の発足から「福島県史」刊行ごろまでの埋蔵文化財保護の取り組みを史料などで振り返る。

(カ) 「福島の火山と防災～吾妻山噴火から 130 年～」

(令和 5 年 2 月 24 日（金）～4 月 5 日（水））

明治 26 年の吾妻山噴火から 130 年になることから、

身近な火山である吾妻山の噴火の歴史、自然や防災に関する資料を展示した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と学校等の展示を行った。

- (ア) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)
令和4年4月8日(金)～5月8日(日)
- (イ) 福島県立橋高等学校美術部作品展
令和4年7月8日(金)～8月3日(水)
- (ウ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)
令和4年8月5日(金)～10月5日(水)
- (エ) (前半) 「令和元年東日本台風からの復旧、防災・減災対策の取組」
令和4年10月7日(金)～10月20日(木)
(後半) 「福島県内の公共土木施設の整備効果～安心・安全、生活の質の向上、生産性向上～」
令和4年10月21日(金)～11月3日(木)
- (オ) 「本はともだち・絵本はともだち」 (県立図書館)
令和4年11月5日(土)～11月30日(水)
- (カ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)
令和4年12月2日(金)～令和5年2月12日(日)
- (キ) 「福島が経験した東日本大震災～風化させない記憶と記録」
令和5年2月24日(金)～4月5日(水)

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 福島を生きる講座

世界的歴史学者・朝河貫一博士をはじめとしたふくしまの偉人や、魅力ある福島の今と未来の発信等、福島に関わる研究者等による、図書館資料を活用した講座やワークショップを実施している。

第1回 中止

第2回 「福島の空襲を米軍資料から探る－国立国会図書館デジタルコレクションから－」

開催日 令和4年8月6日(土) 福島県立図書館
講師 ジャーナリスト・元地方紙論説委員 紺野 滋
参加者 17名

第3回 「もっと知りたい福島の鉄道」

開催日 令和4年8月21日(日)
講師 鉄道博物館 学芸員 香月 良太
参加者 80名

第4回 「史料で読むドラマの主人公たち－五代友厚・渋沢栄一・古関裕而－」

開催日 令和4年10月23日(日)
講師 公益財団法人福島県文化振興財団 歴史資料課 課長 渡邊 智裕
参加者 33名

第5回 「戦後ふくしまの考古学－福島県学生考古学会の活動から－」

開催日 令和4年11月19日(土)
講師 福島県文化財センター白河館 専門学芸員 廣川 紀子
参加者 14名

第6回 「図書館世界のことばでおはなしかい」

開催日 令和4年12月10日(土)
講師 李 智恵、ブラット・マシュー・ウィルソン、県立図書館職員
参加者 21名 (子ども8名、保護者11名、乳児2名)

イ 県民講座

福島県立医科大学、法テラス福島など各関係機関との連携による講演会を実施している。

(ア) 「相続・遺言のいろは」

開催日 令和4年10月8日(土)
講師 日本司法支援センター 法テラス福島 (弁護士) 中條 貴則
参加者 16名

(イ) 福島県立図書館・福島県立医科大学・福島民報社連携講座「図書館に行こう！動いて学ぶ・新聞で学ぶ！明日の元気・家族の健康」

開催日 令和5年2月4日(土)

① “あたま” に栄養補給

〈第1部〉福島民報社 地域づくり局長 真田 裕久
〈第2部〉地域づくり局編集委員 坪井 法彦

② “からだ” 元気に

「手軽に動いて正しく栄養を摂取しフレイル予防」
福島県立医科大学保健科学部理学療法学科
教授 高橋 仁美

③ “こころ” 豊かにたくましく

福島県立図書館内見学 県立図書館職員
参加者 第1部9名 (小学生と保護者)
第2部29名 (一般)

(ウ) 福島県立図書館・児童図書館研究会福島支部

主催事業 (協力: 童心社 協賛: JBBY希望プロジェクト)
「東日本大震災から12年、福島の子どもたちに伝えたい

絵本～『はしれディーゼルきかんしゃデーデ講演会』」
開催日 令和5年2月25日(土)
講師 童話作家 すとう あさえ

画家・絵本作家・鳥の巣研究家 鈴木 まもる

参加者 117名

ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学の衛生学・予防医学講座との連携による講演会を、平成20年度から開催している。

福島県立医科大学衛生学・予防医学講座講演会

開催日 令和4年12月10日(土)
講演1 「冬に危険な低体温症と冬でも危険な熱中症」
講師 福島県立医科大学 医学部
衛生学・予防医学講座准教授 各務 竹康氏

講演 2 「理学療法士が語る！腰痛予防と対策について」
 講師 聖・オリーブの郷 東館
 理学療法士・リハビリ 部長 佐藤 勢氏
 参加者 32名

川俣町教育委員会 370 冊
 浅川町教育委員会 810 冊
 会津美里町教育委員会 467 冊
 合 計 1,647 冊

エ イベント

- (ア) 「福島県立図書館見学探検ツアー」
 開催日 令和4年4月30日(土)
 参加者 9名
- (イ) 「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」
 開催日 令和4年11月3日(祝・木)
 参加者 7名
- (ウ) 「長田弘文庫見学会」
 開催日 令和4年11月3日(祝・木)
 参加者 3名
- (エ) 「司書が教える新聞記事の調べ方講座」
 開催日 令和4年11月12日(土)
 参加者 13名

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的のため新型コロナウイルス対応や日程調整をしながら巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計 22 自治体及び 5 校に対して合計 22,234 冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また、図書館を新規開館した自治体にも立ち上げの支援を行った。22 自治体に巡回し、延べ 20,959 冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な 7 自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービスセンターに対して 3,787 冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・西郷支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校・富岡支援学校の 5 校を巡回し、延べ 1,275 冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位：冊)

令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
24,635	23,101	22,234

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和 4 年度の利用状況は次のとおりである。

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和 4 年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会 506 冊
 平田村教育委員会 403 冊
 玉川村教育委員会 497 冊
 会津若松市教育委員会 16 冊
 北塩原村教育委員会 624 冊
 福島市教育委員会 295 冊
 西郷村教育委員会 71 冊
 浅川町教育委員会 19 冊
 会津美里町教育委員会 138 冊
 桑折町教育委員会 23 冊
 合 計 2,592 冊

(4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年 10 月から JR 只見線の会津川口駅と会津柳津駅に設置している。

(5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和 4 年度は 1 団体 15 冊の出しがあった。

(6) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

令和 4 年度は発行時期調整のため発行実績はなかった。

イ 令和 4 年度版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、昭和 54 年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4 月 1 日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は 6,601,956 冊で、当該人口 1 人当たり 3.96 冊(前年度 3.89 冊)、年間増加冊数は 59,937 冊である。また、令和 4 年度中の総貸出図書冊数は、5,960,137 冊(当該人口 1 人当たり 3.58 冊)である。

ウ 福島県郷土資料情報

第 63 号を発行。特集として平成 11 年度から連載している「福島県関係書誌の紹介」のうち主題編の総索引(あ～そ)を作成し、人物調査の利便性を高めた。ほかに「福島を生きる講座」の実施報告、連載の「貴重郷土資料探照 23」「福島県関係書誌の紹介 2022」を掲載した。80 部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力と遠隔地返却、受取館指定サービス

協力貸出（市町村図書館への資料の貸出）、相互貸借（県内外の他館との資料の貸出・借受）、遠隔地返却（当館から借受け資料を他館に返却する。）サービスを行っている。

また、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができ受取館指定サービスの利用は増加傾向にあったが、令和4年度は災害復旧工事のための休館の影響もあり、前年度比77%と減少した。

相互貸借状況 (単位：件/冊)

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	859	3,406	318	509	1,177	3,915
借用	193	303	71	97	264	400
小計	1,052	3,709	389	606	1,441	4,315

相互貸借状況・推移 (単位：冊)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
5,186	5,387	4,315

遠隔地返却冊数・推移 (利用者が来館し借受けた資料を県内の公立図書館に返却した冊数) (単位：冊)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
6,272	7,750	6,242

(2) 学校図書館サポートセット貸出

県内の小・中学校における学校図書館活動を支援するため、授業の過程において利用することを目的に、希望するテーマに合わせて資料を選びセットにして貸出を行った。令和4年度の利用状況は、6校18セット(480冊)を貸出した。

(3) 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。令和4年度は、21コースを編成し、35自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

(4) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会
(オンライン)

(ア) テーマ

<講話> 「図書館の基礎」

「子どもと本を結ぶ～その意義と役割～」

<分科会> ①「図書館業務の実際」

②「図書室のサービスを考える」

③「学校図書館が目指すもの～その役割を考える～」

(イ) 期 日 令和4年5月27日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 51名

(オ) 講 師 講話、①②：福島県立図書館職員

③：義務教育課指導主事 松山 秀和

福島県立会津高等学校 主任学校司書 阿部 誠

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会(集合)

(ア) テーマ <講演> 「図書館で働くということ」

(イ) 期 日 令和4年10月12日(水)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 27名

(オ) 講 師 須賀川市中央図書館 主幹兼館長補佐 菅野 佳子

ウ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会(講師のみオンライン)

(ア) テーマ

<講義> 「誰にでも分かりやすい図書館サービスを目指して～LL(やさしく読める)利用案内作成～」

<実習> 「プレクストーク(デジタル図書再生機)を使ってみよう」(協力：福島県点字図書館職員)

(イ) 期 日 令和4年11月11日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・公民館図書室職員等 14名

(オ) 講 師 びわこ学院大学 藤澤 和子

エ 福島県図書館初任者職員実務研修会

(ア) 期 日 令和4年10月13日(木)～14日(金)

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 6名

(エ) 講 師 福島県立図書館職員

オ 福島県内児童書担当職員研修会(オンライン・双方向形式)

(ア) テーマ 「脳科学から見た子どもの読書」

(イ) 期 日 令和4年9月16日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 84名

(オ) 講 師 東京大学大学院総合文化研究科 酒井 邦嘉

カ 図書館資料修理研修会(日本図書館協会共催事業)

(ア) テーマ

<講義> 「図書館資料修理の基本的考え方・知識・技術について」

<実習> 「破れの補修」

<実演> 「ノドのゆるみの修理」

<実習> 「表紙外れの本の修理」

(イ) 期 日 令和4年6月30日(木)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 33名

(オ) 講 師 日本図書館協会 資料保存委員会 眞野 節雄

(5) 第20回福島県図書館研究集会(オンライン)

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を

図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ「令和3年著作権法改正が図書館サービスに与える影響」

イ 期 日 令和4年11月25日(金)

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館職員等 29名

オ 内 容

<講義>

「図書館関係の権利制限規定の在り方に関するワーキングチームでの議論と著作権法が抱える課題」

講 師 筑波大学図書館情報メディア系

准教授 村井 麻衣子 氏

(令和2-4年 文化庁文化審議会著作権分科会
法制度小委員会委員)

<報告>

「令和3年著作権法改正と図書館サービス」

講 師 宮城県図書館資料奉仕部震災文庫整備班

主任主査(副班長) 岡本 真澄 氏

(全国公共図書館協議会図書館等による図書館
資料のメール送信等に関する検討PTメンバー)

(6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第12節 福島県立美術館

1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和4年度の実術館活動の概要は次のとおりである。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

大槻 佐恵 福島県中学校教育研究会美術専門部所属
(令和5年1月1日～)

番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属
(平成27年1月1日～)

鈴木 淳一 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼
福島県文化センター館長
(令和5年1月1日～) ※会長

佐藤 育子 福島県家庭教育インストラクター
(令和5年1月1日～) ※副会長

齋藤 勝正 福島県美術家連盟顧問
(平成29年1月1日～)

細田 修二 日本放送協会福島放送局長
(令和5年1月1日～)

岡部 兼芳 はじまりの美術館館長
(令和3年1月1日～)

笠原美智子 アーティゾン美術館副館長
(令和3年1月1日～)

齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長・教授
(平成27年1月1日～) ※副会長

舟木 藤弘 福島県立美術館友の会副会長
(平成29年1月1日～)

イ 協議会の開催

(ア) 期日 令和5年2月16日(木)

(イ) 内容 ・令和4年度事業の概要
・令和5年度事業計画案の概要
・福島県立美術館の運営等

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体 ・全国美術館会議 (会員)
・日本博物館協会 (会員)
・日本博物館協会東北支部 (会員)
・東北地区博物館協会 (会員)
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的に行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

(1) 収蔵作品点数(令和5年3月31日現在)

海外作品	450点
日本画	377点
洋画	926点
版画	1,278点
立体	145点
工芸	158点
書	39点
素描・下絵	219点

写真	411 点
作品合計	4,003 点
美術資料	70 件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

中山 恵理	郡山市立美術館主任主査 (令和元年 12 月 1 日～)
松下 由里	群馬県立近代美術館次長兼学芸係長 (令和元年 12 月 1 日～)
水沢 勉	神奈川県立近代美術館館長 (令和元年 12 月 1 日～)
濱崎 礼二	宮城県美術館副館長 (令和 3 年 12 月 1 日～)
西山 純子	千葉市美術館上席学芸員 (令和 3 年 12 月 1 日～)

イ 委員会の開催

- (ア) 期日 令和 4 年 8 月 5 日(金)
 (イ) 内容 ・令和 2 年度収集作品の報告
 ・令和 4 年度収集候補作品

(3) 図書資料の収集

収蔵図書数 65,283 冊

(4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

- ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)
 時期：令和 4 年 6 月 7 日(火)～21 日(火)、
 8 月 13 日(土)～27 日(土)
 内容：展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の
 虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術品の修復

根上富治《笛》(対幅) 蠣崎波響《雉子・鍾馗・鴛鴦》
 (三幅対)、尾竹越堂《失題》の修復を行うとともに、
 伊砂利彦《ドビュッシー作曲『前奏曲 I』のイメージ
 より》12 点の額を交換した。

また、令和 4 年 3 月 16 日に発生した福島県沖地震により被災した橋本章《砂による絵画・作品 No. 10》の修復及び 6 作品の額の修復・交換を行った。

ウ 敷地内の放射線測定

- (ア) 時期 年 4 回測定
 (イ) 場所 美術館内及び敷地内 計 8 か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年 4 回(版画は年 8 回)展示替えを行っている。

第 I 期コレクション展 令和 4 年 3 月 19 日(土)
 ～7 月 10 日(日)

- ・春の日本画：平福百穂《ふき》ほか
- ・関根正二と大正洋画：関根正二《神の祈り》ほか
- ・テーマ展示 東北が育んだ作家たち：吉井忠《老農夫》ほか
- ・フランス美術の名品：カミーユ・ピサロ《エラニーの菜園》ほか
- ・創作版画の世界：谷中安規《幻想集》(10 点組)ほか

第 II 期コレクション展 令和 4 年 7 月 16 日(土)

～10 月 16 日(日)

- ・テーマ展示 動物づくし：佐藤玄々《山風》ほか
- ・戦後社会とリアリズム：横山操《黒い工場》ほか
- ・ベン・シャーンとアメリカ美術：ベン・シャーン《ラッキー・ドラゴン》ほか
- ・斎藤清と現代版画：斎藤清《霊峰(1)》、加納光於《星反芻学》ほか

第 III 期コレクション展 令和 4 年 10 月 22 日(土)

～12 月 18 日(日)

- ・生誕 100 年 大山忠作：大山忠作《O 先生》ほか
- ・型染の魅力：柚木沙弥郎《人型》、伊砂利彦《シェーンベルク作曲 浄夜より》ほか
- ・海外の美術：アンドリュウ・ワイエス《松ぼっくり男爵》ほか
- ・銅版画と木版画：岸田劉生《天地創造》、恩地孝四郎《母と子》ほか
- ・美術家たちとそれぞれの戦争、あるいは分断：野地正紀《スダマティ(死んでしまった)》ほか

第 IV 期コレクション展 令和 5 年 1 月 5 日(木)

～3 月 5 日(日)

- ・現代の日本画：田淵俊夫《惶 I》ほか
- ・抽象の絵画：山口長男《坦》ほか
- ・印象派の名品：クロード・モネ《ジヴェルニーの草原》ほか
- ・河野保雄コレクション：長谷川利行《ねこ》ほか

(2) 特集展示

「みんな大好き！福島ねこづくし展」

(ア) 会期 令和 4 年 7 月 23 日(土)～8 月 21 日(日)

開催日数 26 日

(イ) 分野 洋画、日本画、版画

(ウ) 展示数 378 点

(エ) 観覧料 常設展料金

(オ) 観覧者数 4,525 名

(カ) 概要

福島は知られざる猫天国？だった。養蚕が盛んだった明治以降の福島県では、蚕の天敵・鼠を駆除する猫は重宝がられ、はては“神”として祀られた。川俣町に猫を祭神とする猫稻荷神社がつけられたのをはじめ、各地に猫を崇める民間信仰が生まれたのである。この小企画では、身近な愛玩動物として画家たちが描いた猫の作品や、民間信仰としての猫の姿を通して、近年の猫ブームの底流を探ることを試みた。

(キ) 関連事業

- ・スライドトーク「福島の猫神と猫絵馬」

講師：石黒 伸一朗（村田町歴史みらい館館長）

日時：令和4年7月31日（日） 14時～15時

場所：講堂

参加者数：68名

- ・ワークショップ「うるしをみがいて作るピカピカ猫のブローチ」

講師：平井 岳（漆芸家）、平井 綾子（漆芸家）

日時：令和4年7月30日（土）

時間：①10時30分～12時 ②13時30分～15時

場所：実習室

参加者数：①8名 ②12名

- ・ワークショップ「猫絵馬作りに挑戦！」

展示されている猫稲荷神社の絵馬にちなんで、来館者に思い思いの絵馬を作成いただき、エントランスホールに展示した。

展示期間：令和4年7月23日（土）～8月21日（日）

展示枚数：約900枚

(3) 企画展

令和4年度は6回の企画展を開催し、国内外の様々な芸術文化を紹介した。

ア 写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2 & どうぶつ家族

(ア) 会期 令和4年3月19日（土）～5月22日（日）

開催日数 56日（令和4年度 45日）

(イ) 分野 写真

(ウ) 展示数 約260点

(エ) 主催 福島県立美術館、福島民報社

後援 NHK福島放送局

企画協力 株式会社NHKエンタープライズ

企画制作 クレヴィス

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円

高校生 600(500)円

小・中学生 400(300)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 19,094名（令和4年度 16,072名）

(キ) 概要

岩合光昭は、動物写真家として今や世界中にファンを持つ、人気と実力を兼ね備えた作家である。近年話題となったシリーズに「岩合光昭の世界ネコ歩き2」（NHKBSで放映中）や「どうぶつ家族」がある。本展は、この2シリーズを同時に展示し、動物写真家・岩合光昭の世界を約260点の作品で味わう初めての展覧会である。ネコたちの屈託のない立ち振る舞いや、動物たちの飾らない愛情に満ちた表情は、東日本大震災から10年以上を経て、あらためて命の尊さ、家族の絆、生命の循環といった普遍的な問題を考える機会を提供してくれた。

(ク) 関連事業

- ・岩合光昭ギャラリートーク

日時：令和4年4月29日（金）

①11時～11時30分 ②14時～14時30分

場所：企画展示室

参加者数：①②各100名

- ・岩合光昭サイン会

日時：令和4年4月29日（金）

①11時30分～12時30分

②14時30分～15時30分

場所：講堂

参加者数：①250名 ②130名

- ・関連イベント「自慢のネコちゃん写真大募集」

自慢のネコちゃんの写真を応募いただき、エントランスホールで展示した。

受付期間：令和4年3月19日（土）～4月30日（土）

展示期間：展覧会会期中

イ 東北へのまなざし 1930-1945

(ア) 会期 令和4年6月4日（土）～7月10日（日）

開催日数 32日

(イ) 分野 工芸、民具、建築、写真、絵画、版画

(ウ) 展示数 380点

(エ) 主催 福島県立美術館、日本経済新聞社

特別協力 公益財団法人日本民藝館

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円

高校生 600(500)円

小・中学生 400(300)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 2,639名

(キ) 概要

1930年代、時代の先端を見ていた人々が、東北地方を訪れ、その土地の建築や人々の生活用品に注目した。建築家ブルーノ・タウト、柳宗悦、シャルロット・ペリアンなどがそれで、郷土玩具を蒐集した武井武雄や、東北出身の「考現学」の祖・今和次郎や、東北生活美術研究会を主導した吉井忠なども、故郷の人々と暮らしを見つめ直している。本展は、こうした複層的な東北を見つめる「眼」をとおして、あらためて東北の暮らしと文化について考えるものであった。後進的、周縁とみなされてきた東北地方は、豊饒なる文化の揺籃として脚光をあびた時期があったことを、300点を超える資料群で検証する展覧会となった。（巡回先：岩手県立美術館、東京ステーションギャラリー）

(ク) 関連事業

- ・講演会「リュックを背負った芭蕉！ードイツ人建築家が見た昭和初期の東北」

講師：沢 良子（建築史家、福島学院大学副学長）

日時：令和4年6月5日（日）14時～15時30分

場所：講堂

参加者数：50人

- ・公開対談「アウト・オブ・民藝 東北へのまなざし編」

講師：軸原 ヨウスケ（デザイナー）× 中村 裕太（美術家）

日時：令和4年6月25日（土）14時～15時30分

場所：講堂

参加者数：56人

- ・担当学芸員によるギャラリートーク
講師：堀 宜雄（副館長心得兼学芸課長）
日時：①令和4年6月12日(日)
②令和4年7月1日(金) 各日14時～15時
参加者数：①15人 ②20人
- ・ワークショップ「こけしの源流を想像して、こけしに絵を描こう」
講師：軸原 ヨウスケ（デザイナー）
日時：令和4年6月26日(日)
①10時～11時30分 ②14時～15時30分
場所：実習室
参加者数：①10名 ②11名

ウ 生誕100年 朝倉展

- (ア) 会期 令和4年9月3日(土)～10月16日(日)
開催日数 38日
- (イ) 分野 日本画、舞台美術、絵本挿絵等
- (ウ) 展示数 160点
- (エ) 主催 福島県立美術館、福島民友新聞社
助成 公益財団法人ポーラ美術振興財団
- (オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円
高校生600(500)円
小・中学生400(300)円
※()内は20名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 4,376名
- (キ) 概要

朝倉撰(1922-2014)は、彫刻家・朝倉文夫の長女として東京・谷中に生まれ、17歳のときから日本画家としてスタートを切った。戦前・戦中の作風は、農作業に勤しむ銃後の女性像をモダンな感覚で描き出し、戦後は、佐藤忠良や中谷泰といった仲間の作家たちと地方の漁村や炭鉱などを訪れ、労働者の生活に取材した社会派の作品を発表した。なかでも福島県の常磐炭田には何度も足を運んだ。60年安保闘争に参加したことを契機に、朝倉は舞台美術の世界に新しい可能性を見出していく。作家の没後に画家としての朝倉の足跡が明らかになり、本展では舞台美術、挿絵とともに日本画作品を紹介、多様な創作活動の全貌に迫った。(巡回先：神奈川県立近代美術館、練馬区立美術館)

(ク) 関連事業

- ・トークイベント「アヴェンギャルド母 朝倉撰のこと」／朗読会「スイッチョねこ」
講師：富沢 亜古（俳優）
日時：令和4年9月11日(日) 14時～15時
場所：講堂
参加者数：80名
- ・担当学芸員によるギャラリートーク
講師：①増渕 鏡子（専門学芸員）
②濱田 洋亮（学芸員）
日時：①令和4年9月17日(土)
②令和4年10月8日(土) 各日14時～15時

参加者数：①25名 ②27名

- ・「アートなおはなしかい」
講師：大北 孝（主任学芸員）、内野 由美子（会計年度任用職員）、図書館司書
日時：令和4年9月23日(金) 14時～15時30分
場所：福島県立図書館、福島県立美術館
参加者数：13名

エ 没後200年 亜欧堂田善—江戸の洋風画家、創造の軌跡

- (ア) 会期 令和4年10月29日(土)～12月18日(日)
開催日数 43日
- (イ) 分野 洋画、日本画、版画
- (ウ) 展示数 262点
- (エ) 主催 福島県立美術館、福島民報社、KFB福島放送、東京新聞
特別協力 須賀川市立博物館、神戸市立博物館
- (オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円
高校生600(500)円
小・中学生400(300)円
※()内は20名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 3,332名
- (キ) 概要

福島県須賀川に生まれた亜欧堂田善、本名永田善吉(1748-1822)は、司馬江漢と並んで、江戸時代後期を代表する洋風画家の一人である。現在の田善は白河藩主松平定信から腐食銅版画技術の習得を命じられ、西洋からもたらされた文物をもとに、試行錯誤の末、この技法を身に付けた。田善は、粘り強く銅版画を研究して自家薬籠中の物とした、いわば技法の大成者として高く評価されている。

田善の没後200年を記念して開催する本展覧会では、田善の銅版画をはじめ、肉筆の洋風画、素描などにより彼の画業を振り返るとともに、田善が目にしたであろう西洋版画や同時代の絵師たちの作品も展示し、その表現の源泉と独自性を探った。(巡回先：千葉市美術館)

(ク) 関連事業

- ・担当学芸員によるギャラリートーク
講師：坂本 篤史（主任学芸員）
日時：①令和4年11月12日(土)
②令和4年12月3日(土) 各日14時～14時45分
参加者数：①25名 ②30名
- ・ワークショップ「鍾馗様の小旗を作ろう」
講師：大野 青峯（須賀川絵のぼり吉野屋六代目）
日時：令和4年11月20日(日) 10時～12時
場所：実習室
参加者数：9名

オ 福島アートアニュアル2023 境界を跨ぐ—村越としや・根本裕子

- (ア) 会期 令和5年1月28日(土)～3月5日(日)
開催日数 31日
- (イ) 分野 写真、工芸

(ウ) 展示数 99点

(エ) 主催 福島県立美術館

後援 須賀川市、須賀川市教育委員会

(オ) 観覧料 一般・大学生 400(300)円

高校生 200(100)円

小・中学生 100(50)円

※()内は20名以上の団体料金

(カ) 概要

福島県立美術館では開館以来、福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介する事業を開催してきたが、令和3年度からは新たに、近年充実した創作活動を繰り広げている福島県ゆかりの若手作家を継続的に紹介するシリーズ企画「福島アートアニュアル」を立ち上げた。

第2回目となる本展では、写真家の村越としや(1980年 須賀川市生まれ、東京都在住)、陶芸家の根本裕子(1984年 須賀川市生まれ、同市在住)の2名を取り上げた。モノクロームの写真で、福島の風土を撮影する村越。陶土によって、野性味あふれる野良犬を形づくる根本。静謐な写真群はその中に何かが潜んでいそうな独特の空気をまとい、異質な野良犬たちは緊迫した雰囲気をつつ。さらなる活躍が期待される彼らの創作活動の一端を紹介した。

(キ) 関連事業

・出品作家によるギャラリートーク

講師：村越 としや、根本 裕子

日時：令和5年1月28日(土) 14時～15時

参加者数：40名

・ワークショップ「ピンホールカメラを作って撮影してみよう」

講師：村越 としや(写真家)

日時：令和5年2月4日(土) 10時～16時

場所：実習室

参加者数：8名

・触って、話して、見て楽しむ美術館賞ワークショップ「根本裕子さんの《野良犬》を鑑賞する」

講師：根本 裕子(陶芸家)、当館学芸員

日時：令和5年3月4日(土)

①10時30分～12時 ②14時～15時30分

場所：講義室、企画展示室

参加者数：32名

カ 美(み)をつくしー大阪市立美術館コレクション

(ア) 会期 令和5年3月21日(火)～5月21日(日)

開催日数 54日(令和4年度10日)

(イ) 分野 絵画、書蹟、彫刻、工芸等

(ウ) 展示数 約172点

(エ) 主催 大阪市立美術館ふくしま展実行委員会

[構成：福島県立美術館、テレビユー福島、福島民報社]

企画協力 大阪市立美術館、毎日新聞社

(オ) 観覧料 一般1,300(1,100)円

高校・大学生1,000(800)円

小・中学生400(300)円

※()内は前売及び20名以上の団体料金

(カ) 概要

昭和11年(1936)5月、庭園(慶沢園)とともに大阪市に寄贈された住友家の本邸があった天王寺茶臼山の地に、大阪市立美術館は開館した。8,500件以上にのぼる所蔵作品は、日本・中国の絵画・書蹟・彫刻・工芸など多岐にわたる。関西を中心に活躍した財界人らが収集したコレクションをまとめて所蔵する点に特徴があり、古美術から近代の作品まで実に多彩な顔ぶれである。

本展は、開館90周年を迎えるのを前に大規模な改修工事を行う休館の時期に、大阪市立美術館が所蔵するこれらの名品から厳選された172件の作品を一堂で紹介する企画であり、大阪が誇る東洋美術の精華を多くの方々にお楽しみいただいた。

(4) 動画配信等による情報発信

展覧会や教育普及事業など、美術館の事業を幅広い世代へ即時効果的に発信するため、広報印刷物の発行のほか、ホームページ、ブログ、ツイッター、YouTubeなど、SNSを活用した情報発信を行っている。

広報印刷物：ミュージアムカレンダー、「美術館NEWS」年6回、美術館年報、企画展ポスター・チラシ等

SNS発信：ブログ投稿18回(常設展示、教育普及事業の紹介)、YouTube動画4本(企画展の紹介)等

4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

(1) 調査活動

令和4年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収集作家(県内の現代版画コレクション、村越としや、根本裕子ほか県関係若手作家など)の調査を重点的に行った。

5 教育普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和4年度の受入団体総数は50団体1,408名で、そのうち解説を行ったのは21団体728名である。

(2) 鑑賞講座

芸術鑑賞講座「名画との対話」

講師：早川 博明（当館前館長）

場所：講堂

第1回「バロックの巨匠たち(1)-ルーベンス」

日時：令和4年6月11日(土)10時30分～12時

参加者数：43名

第2回「バロックの巨匠たち(2)-ベラスケス」

日時：令和4年8月13日(土)10時30分～12時

参加者数：28名

第3回「バロックの巨匠たち(3)-レンブラント」

日時：令和4年10月8日(土)10時30分～12時

参加者数：45名

第4回「バロックの巨匠たち(4)-フェルメール」

日時：令和4年12月10日(土)10時30分～12時

参加者数：50名

(3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「写真のような鉛筆デッサン-自画像を描く」

講師：大北 孝（主任学芸員）

日時：令和4年4月16日(土)10時30分～15時

場所：実習室

参加者数：5名

イ 「もののけワークショップ」

講師：香川 大介（画家）

日時：令和4年5月8日(日)10時30分～12時

場所：実習室

参加者数：12名

ウ 「こけしの源流を想像して、こけしに絵を描こう」

講師：軸原 ヨウスケ（デザイナー）

日時：令和4年6月26日(日)

①10時～11時30分 ②14時～15時30分

場所：実習室

参加者数：①10名 ②11名

エ 「お気に入りの絵を彫ろう 漆の沈金体験」

講師：吾子 可苗（漆芸家）

日時：令和4年7月10日(日)

①10時30分～12時 ②13時30分～15時

場所：実習室

参加者数：①8名 ②9名

オ 「うるしをみがいて作るピカピカ猫のブローチ」

講師：平井 岳（漆芸家）、平井 綾子（漆芸家）

日時：令和4年7月30日(土)

①10時30分～12時 ②13時30分～15時

場所：実習室

参加者数：①8名 ②12名

カ 「ドローイング、ドローイング、ドローイング。」

講師：小沢 剛（美術家）

日時：令和4年11月3日(木)9時30分～16時30分

場所：エントランスホールほか

参加者数：23名

キ 「鍾馗様の小旗を作ろう」

講師：大野 青峯（須賀川絵のぼり吉野家六代目）

日時：令和4年11月20日(日)10時～12時

場所：実習室

参加者数：9名

ク 「想像のお庭を作ろう」

講師：杉浦 藍（美術作家）

日時：令和4年12月11日(日)10時～12時

場所：実習室

参加者数：9名

ケ 「シルクスクリーンでオリジナルTシャツを作ろう！」

講師：大河原 健太（版画家）

日時：令和5年1月15日(日)10時～16時30分

場所：実習室

参加者数：12名

コ 「ピンホールカメラを作って撮影してみよう」

講師：村越 としや（写真家）

日時：令和5年2月4日(土)10時～16時

場所：実習室

参加者数：8名

(4) 美術館への年賀状展

県内の小・中・高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

- ・会期：令和5年1月12日(木)～1月31日(火)
- ・応募総数：114通
- ・観覧者数：610名

(5) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。子どもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して子どもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元を図る。

令和4年度は、小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて8校（参加者延べ284名）で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和5年2月4日(土)～2月26日(日)の期間、当館企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 講師：FRIDAY SCREEN（アートユニット）

プログラム：もりもりもじ！

内容：身の周りに溢れている「文字」をテーマにしたワークショップ。グラフィックデザインの発想から造形までを経験する内容。

開催校・人数：

郡山市立緑ヶ丘中学校・郡山第一中学校（美術部）

令和4年10月8日(土) 21名
福島市教育委員会教育研修課(ふれあい教室)
令和4年10月25日(火) 6名
福島市教育委員会教育研修課(ふれあい教室)
令和4年11月10日(木) 6名
福島市教育委員会教育研修課(ふれあい教室)
令和4年11月11日(金) 5名

(イ) 講師: よしもと みか(移動絵本図書館 みず文庫)
プログラム: 私の「いま」を色と形で表現してみよう。
内容: 子どもたちと日々触れ合っている先生から実態
を聞き、それぞれにあった素材と画材を選んで
色と形を表現するワークショップ。

開催校・人数:

会津坂下町立坂下中学校(文化部)
令和4年9月15日(木) 26名
会津若松市立第二中学校(美術部)
令和4年9月29日(木) 11名
小野町立小野小学校(5年生)
令和4年10月13日(木) 75名
西郷村立米小学校(1・2年生)
令和4年10月27日(木) 75名
いわき市立小名浜第三小学校(2年生)
令和4年11月17日(木) 59名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導に
ついて、講座を開催する福島県教育センターと連携しな
がら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和4年度は、前期・後期の2回にわたって講座を開
催した。

(ア) 前期

日時: 令和4年8月5日(金)13時~13時50分
場所: 福島県教育センター
講義・演習「学校と美術館の連携活動についてI」

(イ) 後期

日時: 令和4年11月1日(火)10時~15時45分
場所: 福島県立美術館
講義・演習「学校と美術館の連携活動についてII」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

講師: 梅野 史代(教育センター指導主事)

大北 孝(主任学芸員)

参加者: 小学校教諭6名、中学校教諭5名、特別支援
学校教諭3名 合計14名

(6) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入
れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時: 令和4年8月23日(火)~8月28日(日)

受講者数: 3名

(7) 県立図書館との連携事業

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の
「よみかかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」

を連携させた「アートなおはなしかい」を、平成18年度か
ら継続実施している。

日時: 令和4年9月23日(金)14時~15時30分

場所: 福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数: 13名

6 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の
向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性
化に取り組んでいる。

令和4年度においても、関係団体との連携事業を実施する
とともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等と
して学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

(1) 友の会、協力会との連携事業

例年、友の会が実施している企画展開催時のボランティ
アや実技講座等については、新型コロナウイルス感染拡大
防止のため実施を見合わせた。令和4年度に友の会や協力
会と実施した連携事業は次のとおりである。

ア 「アートミーツクッキー」

<NPO 法人福島県立美術館協力会との共催>

「見る」「書く」「描く」「食べる」と様々な感覚を取り
入れた、子どもも大人も参加できるアクティブ型の美術
鑑賞企画を実施した。

日時: 令和4年9月19日(月)9時30分~14時30分

場所: エントランスホール、常設展示室

企画・ディレクション: Hi there 合同会社

参加者数: 300名

イ ミュージアム・コンサート

<NPO 法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友
の会との共催>

日時: 令和4年7月24日(日)14時~

場所: エントランスホール

出演: 富山 律子(ピアノ)、遠藤 紘子(ソプラノ)

参加者数: 130名

ウ 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

「根本裕子さんの《野良犬》を鑑賞する」

<NPO 法人福島県立美術館協力会との共催>

日時: 令和5年3月4日(土)

①10時30分~12時 ②14時~15時30分

場所: 講義室、企画展示室

講師: 根本 裕子(陶芸家)、当館学芸員

参加者: 32名

エ アートチャリティーバザー

<福島県立美術館友の会の主催>

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品、美術図書、
図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、バザーを
実施した。

日時: 令和4年12月4日(日) 9時30分~12時

場所: エントランスホール

参加者: 66名

オ アートカード「ぼけっとアート」貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材「ぼけっとアート」の貸出を継続して行っている。令和4年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、161か所、809セットである。

(2) 文化財保護活動

災害時においては、県内の美術作品を中心として文化財の被災情報を収集し、関係機関と連携しながら、作品保全のための活動を行うこととしている。

令和4年度は、関係機関との協力のもと、令和3年2月及び令和4年3月の福島県沖地震により被災した、飯館村の山津見神社に1回、相馬市内の被災施設に2回、文化財レスキュー活動のため職員を派遣した。

(3) 他機関への協力

ア 委員等

- ・福島市文化振興条例検討委員会委員（長根 由里子館長）
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事
（長根 由里子館長、堀 宜雄副館長心得兼学芸課長）
- ・福島県総合美術展覧会運営委員
（堀 宜雄副館長心得兼学芸課長）
- ・第76回福島県総合美術展覧会大賞選考委員
（増渕 鏡子専門学芸員）
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員
（増渕 鏡子専門学芸員）
- ・相馬市史調査編さん委員（増渕 鏡子専門学芸員）
- ・第20回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員
（宮武 弘 主任学芸員）
- ・福島市写真美術館運営委員会委員
（紺野 朋子主任学芸員）
- ・第17回西会津国際芸術村公募展審査員
（大北 孝 主任学芸員）
- ・郡山市立美術館協議会委員（荒木 康子専門員）
- ・いわき市立美術館選定評価委員会委員
（荒木 康子専門員）
- ・喜多方市美術品収集委員会委員（荒木 康子専門員）
- ・公益財団法人会津若松文化振興財団「新しいAIZUの美術展」選考委員（荒木 康子専門員）

イ 講師、寄稿、発表、受賞等

- ・福島大学行政政策学類「博物館経営論」
令和4年4月7日(木)～9月30日(金)
全15回（講師：荒木 康子専門員）
- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」
令和4年5月11日(水)（講師：堀 宜雄副館長心得兼学芸課長、橋本 恵里学芸員）
- ・福島大学人間発達文化学類「現代アートマネージメント」
令和4年6月17日(金)（講師：増渕 鏡子専門学芸員）
令和4年7月1日(金)（講師：荒木 康子専門員）
- ・福島県高等学校教育研究会美術・工芸部会「第67回研究大会」
令和4年6月17日(金)（講師：大北 孝主任学芸員）

- ・令和4年度福島地区中学校教育研究会美術専門部会研修
令和4年7月27日(水)（講師：大北 孝主任学芸員、橋本 恵里学芸員）
- ・福島県立医科大学医学部「芸術と文化 博物館・美術館にみる芸術と文化」
令和4年11月9日(水)「亜欧堂田善の生涯と画業」
（講師：坂本 篤史主任学芸員）
令和4年11月16日(水)「野地正記《スダマティ》」
（講師：堀 宜雄副館長心得兼学芸課長）
令和4年11月19日(土) 企画展・常設展見学
（講師：坂本 篤史主任学芸員）
- ・明治美術学会発表「朝倉撰のリアリズム 60年安保闘争をはさんで」(オンライン開催)
令和4年10月29日(土)（講師：増渕 鏡子専門学芸員）
- ・福島県博物館連絡協議会「博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会～合理的配慮の視点から障害者への対応を考える～」
令和4年11月25日(金)（講師：荒木 康子専門員）
- ・福島県博物館連絡協議会「第2回研修会」
令和5年2月8日(水)（講演会講師：堀 宜雄副館長心得兼学芸課長）

7 施設・設備の整備

令和4年3月16日に発生した福島県沖地震により、建物や設備、敷地内舗装等に被害が生じたため、令和4年度は、通常の施設・設備の維持管理に加えて、被災した設備等の復旧に取り組んだ。また、令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により被災した池の漏水修繕も行った。令和4年度における災害復旧費総額は12,739千円であった。

第13節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和4年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

学校教育

高橋 由江 会津若松市立神指小学校長

齊藤 恵子 福島県立郡山支援学校校長

社会教育

長野 隆人（会長） いわき芸術文化交流館副館長

佐藤 公（副会長） 磐梯山噴火記念館館長

家庭教育

滝澤 玲子 福島県家庭教育インストラクター連絡
協議会 会津さざなみの会会員

学識経験者

川口 立喜 公立大学法人会津大学グローバル推進
本部国際戦略室長・准教授

四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員

大越 章子 日々の新聞社記者

岩崎 和美 書道家

公募

町田 久次 公募委員

イ 会議

第1回 令和4年7月15日(金)

議題

- ①令和3年度博物館入館者数について
- ②第3期中期目標の進捗状況について
- ③Innovate MUSEUM事業「ふくしま・創造・博物館」について
- ④博物館が抱える課題について

第2回 令和5年2月28日(火)

議題

- ①令和4年度事業報告について
- ②令和5年度事業計画(案)について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、
12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員長
岡田 清一	東北福祉大学名誉教授	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	
角屋 由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	
玉川 一郎	前 福島県考古学会会長	
原田 一敏	ふくやま美術館長	
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	

イ 会議

コロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わず、オンライン開催とした。

開催日：令和4年7月27日(水)

議題

- ①今後2年間の展示計画について
- ②令和5年度・令和6年度開催予定企画展について
- ③購入予定資料について
- ④「博物館資料展示活用アウトリーチ事業」について
- ⑤「三の丸からプロジェクト」について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

- (7) 受贈 武井柯亭書6曲1双ほか 計25件
- (4) 受託 佐々木只三郎和歌短冊ほか 計15件

イ 美術資料

- (7) 受贈 節句掛軸(印刷)ほか 計155件
- (4) 受託 脇差 銘(表)備州長船康ほか 計6件

ウ 民俗資料

- (7) 受贈 皮箕ほか 計69件
- (4) 受託 掛軸(書「学者如登山」) 1件

エ 考古資料

- (7) 受贈 縄文土器片一式ほか 7件

オ 自然資料

- (7) 受贈 歯化石ほか 計13件
- (4) 受託 宮古層群産アンモナイトほか 計9件

カ 災害分野

- (7) 受贈 時計 1件

(3) 購入

ア 美術資料

- 永峰伊水「唐人王(東王父)・山水図」ほか 計3件

イ 図書資料

- (7) 一般図書 100冊
- (4) 定期刊行物 30種

(4) 制作

ア 民俗資料 「藁づと納豆」食品サンプルほか 計16件

3 保存管理事業

(1) 資料の收藏

ア 博物館資料

資料受入れ時点における收藏資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。

收藏資料数(令和5年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	21,030	土器・石器・金属器ほか
民俗	14,127	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,648	書籍・文書資料ほか
美術	7,460	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,554	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	631	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	110,450	

令和4年度收藏指定文化財 国指定：8件
福島県指定：46件

イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数 (令和5年3月31日現在)

考古分野：29,622冊 民俗分野：5,131冊
 歴史分野：11,133冊 美術分野：4,953冊
 自然分野：17,866冊 保存分野：1,932冊
 震災遺産：201冊 その他：64,052冊
 合計：134,890冊

(イ) 収蔵映像資料数 (令和5年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,535点

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和5年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和4年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和4年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	2	12,591	750	4,418
民俗資料類	1,308	16,653	1,308	7,025
歴史資料類	559	47,036	2,250	18,271
美術工芸品類	587	7,171	126	194
自然標本類	106	26,826	2,200	16,541
合計	2,562	110,277	6,634	46,449

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成25年度から、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入している。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により、ボランティア活動日が減った。

(ア) 自然資料整理

磐梯山関係資料のほか、化石の整理作業

登録人数 2名 活動日数 1日

(イ) 古文書整理

歴史資料の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取) 登録人数 16名 活動日数 11日

(ウ) 民俗資料整理

写真資料の整理

登録人数 2名 活動日数 9日

(エ) 考古資料整理

寄贈資料の整理・撮影

登録人数 1名 活動日数 20日

(オ) 美術資料整理

会津工業高校旧蔵資料整理作業

登録人数 1名 活動日数 45日

(3) 貸出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 正徳6年銘 1点	磐梯町磐梯山	令和4年4月5日～	常設展
十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 文政9年銘 1点	慧日寺資料館	12月2日	
フタバクジラ肩甲骨化石産状レプリカ 1点	山形県立博物館	令和4年5月13日～ 9月4日	特別展「発掘30年・mamlogワクジラ、新生代を泳ぐ～やまがた北部の古生物～」
オオクマイルカ頭蓋他一式	神栖市歴史民俗資料館	令和4年7月23日～ 9月4日	企画展「鯨-恐竜絶滅後の海の王者たち-」
西会津町萱本の「百万遍」のお人形様 1点	磐梯町磐梯山	令和4年6月21日～	企画展「会津妖怪かわら版
西会津町屋敷の「百万遍」のお人形様 2点	慧日寺資料館	9月28日	～第二版～」
会津美里町市野の「百万遍」のお人形様 1点			
山姥のかもじ(猪苗代町教育委員会所蔵、当館寄託)			
「道中案内」1巻	大田原市那須与一伝承館	令和4年10月1日～ 令和5年1月20日	企画展「奥州道中-大田原の街道と宿場」
会津藩廻米路絵図 1枚			
「図書 下郷ノ部 弥五島組松川組 四」1冊			
松平定信編『集古十種』74冊	福島県立美術館	令和4年10月29日～ 12月18日	「没後200年 亜欧堂田善」展
遠藤香村「七里ヶ浜図」絹本油彩 1面	千葉市美術館	令和5年1月13日～ 2月26日	
遠藤香村「十六橋図」絹本油彩 1面			

イ 写真資料

総数：87件 268点

考古：19件 28点 民俗：12件 146点

歴史：31件 56点 美術：25件 38点

(4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。

イ 生物被害防除

7月と8月にかけて1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施した。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- (ア) 「白磁の系譜～会津本郷焼、一重孔希～」
- (イ) 「新種！ワニの祖先の化石」
- (ウ) 「祈りのふくしま6～会津の祈り、願い～」
- (エ) 「中ノ沢こけし～ふくしまの郷土玩具～」
- (オ) 「写真資料から見える会津の風景～小滝清次郎民俗写真～」
- (カ) 「吉祥～会津のめでたいものたち～」
- (キ) 「美しき刃たち 会津編」

イ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- (ア) 「暑さ寒さをしのぐ道具たち」
- (イ) 「よみがえる南郷刺し子の世界」
- (ウ) 「桜枝岐の歌舞伎衣装」
- (エ) 「福島県近代医学教育150年記念 人物シリーズ① 松平容大の種痘」
- (オ) 「人物シリーズ②伊達政宗と会津攻め」
- (カ) 「ふくしま草食恐竜展」
- (キ) 「みんなの震災遺産」
- (ク) 「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」
- (ケ) 「軍事郵便が繋いだ絆」
- (コ) 「古墳から見つかったお経」

(サ) 「人物シリーズ③会津藩の歴史編纂と山川兄弟」

(シ) 「器から探る古墳時代の暮らし」

(ス) 「人物シリーズ④保科正之の遺言」

(セ) 「3Dふくしま展」

(ソ) 「鉄道と地域の発展」

(タ) 「人物シリーズ⑤上杉景勝とふくしま」

(チ) 「ふくしまの蔵手刀」

(ツ) 「これは何の化石？」

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和4年度は、4本の企画展示を開催した。

ア 春の企画展

「アンモナイト合戦 ―アンモナイト vs 同時代の生き物たち―」

(ア) 会期 令和4年4月23日(土)～6月26日(日)

開館日数 57日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 入館者数 8,928人

(エ) 担当学芸員 自然分野：猪瀬 弘瑛

(オ) 趣旨

アンモナイトは、子どもたちを中心に人気があり、福島県でも浜通り地方から比較的豊富に見つかっている化石でもある。本企画展は、県内外のアンモナイトを展示することで、その謎と魅力を紹介した。

アンモナイトだけでなく、同時代に生きていたクビナガリュウや恐竜なども展示して、過去の生態系について想像できる企画展を目指した。

(カ) 展示構成

- a 世界のアンモナイト
- b 生き物としてのアンモナイト
- c 福島県のアンモナイト
- d 日本のアンモナイト
- e アンモナイトと同時代の生き物たち
- f アンモナイトとヒト

(キ) 関連事業

- a 見どころ解説会
4月23日(土)・6月19日(日)
- b 講演会「新種！ ワニ祖先の化石 特別講演」
5月4日(水・祝)
講師 吉田 純輝(当館学芸員)
- c 自然史講座「アンモナイトをさがそう」
5月21日(土)
- d 自然史講座「化石標本をつくろう！」
5月15日(日)
- e 記念講演会「アンモナイトの不思議」
6月11日(土)
講師 重田 康成(国立科学博物館 地学研究部グループ長)

イ 夏の企画展

「新選組展 2022—史料から辿る足跡」

- (ア) 会期 令和4年7月23日(土)～9月19日(月・祝)
開館日数 51 日間
- (イ) 会場 企画展示室、部門展示室 歴史・美術
- (ウ) 主催 新選組展 2022 実行委員会
(福島県立博物館・福島民友新聞社・福島中央テレビ)、読売新聞社
- 監修 三野行徳氏(昭和女子大学専任講師、NHK大河ドラマ「新選組!」資料提供)
- 特別協力 日野市ふるさと文化財課(新選組のふるさと歴史館)
- 協力 一般財団法人会津若松観光ビューロー
- 後援 福島県、福島県教育委員会、会津若松市、白河市、極上の会津プロジェクト協議会、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会、会津の文化×地域振興プロジェクト協議会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、会津若松商工会、福島テレビ、福島放送、テレビユー福島、NHK 福島放送局、ふくしまFM、ラジオ福島、河北新報社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、産経新聞福島支局
- (エ) 入館者数 43,673 人
- (オ) 担当学芸員 歴史分野：阿部 綾子・栗原 祐斗
- (カ) 趣旨

新選組は小説、アニメ、ドラマ、映画などで広く親しまれてきた一方で、近年歴史学の分野では調査・研究が進み、従来の新選組像とは異なった姿も明らかとなってきている。最新の知見を加味しながら、会津、京都という新選組と深く結びついたゆかりの地を舞台に新選組の実像に迫る展覧会を目指した。福島会場終了後、京都文化博物館に会場を移して開催(京都会場会期：10月1日～11月27日)した。

(キ) 展示構成

- 尊王攘夷の幕末
- 京都守護職と多摩の草莽
- 新選組誕生—幕末の京都政局
- 池田屋事件と一会桑勢力
- 戊辰戦争へ
- 土方歳三の新選組と会津戦争
- それぞれの戦後

(ク) 関連事業

- 記念対談「ダブル子孫で語る～土方歳三と和泉寺兼定～」
7月30日(土)
講師 土方 愛(土方歳三記念館 館長、土方歳三御子孫)、ハーバート眞理子(フリーライター、十一代古川兼定御子孫)
- 記念講演会①「新選組局長・近藤勇を読み直す」
8月6日(土)

講師 三野 行徳(昭和女子大学専任講師、本展監修者)

c 木刀絵付け体験「オリジナル刀剣をつくろう」
8月11日(木・祝)

d 天然理心流演武
8月28日(日)

講師 宮川 清蔵(天然理心流九代目宗家、近藤勇御子孫)、天然理心流勇武館の皆さん

e 記念講演会②「新選組と会津藩」
9月10日(土)

講師 大石 学(東京学芸大学名誉教授、NHK大河ドラマ「新選組!」時代考証)

f 見どころ解説会

7月23日(土)、8月13日(土)、8月27日(土)、9月3日(土)、9月17日(土)、9月18日(日)

ウ 秋の企画展「林原美術館名品展 名君の大名文化—岡山池田家と会津 武、その華と志—(福島民報創刊130周年記念)」

(ア) 会期 令和4年10月7日(金)～12月4日(日)
開館日数 51 日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 名君の大名文化展実行委員会(福島県立博物館、福島民報社、福島テレビ)

特別協力 林原美術館

協力 岡山県立美術館

後援 福島県、福島県教育委員会、会津若松市、会津若松市教育委員会、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会、会津の文化×地域振興プロジェクト協議会、会津若松商工会議所、一般財団法人会津若松観光ビューロー、ラジオ福島、エフエム会津、喜多方シティエフエム、福島リビング新聞社

(エ) 入館者数 10,411 人

(オ) 担当学芸員 美術分野：川延 安直・小林 めぐみ・塚本 麻衣子・原 恵理子
歴史分野：高橋 充

(カ) 趣旨

岡山藩主池田家は西国を代表する大名家。藩祖・池田光政と会津藩主保科正之は同時代を生き、共に名君と仰がれた。本展では、岡山市に所在する林原美術館の特別協力により、池田家の文武を伝える名品の数々を会津の地でご覧いただいた。池田家ゆかりの甲冑、能装束、絵画、婚礼調度、そしてそれらを引き継いだ林原家収集の質の高い美術工芸品を展示。後半では岡山藩士から文人に転身し、会津藩に招かれて土津神社の神楽を再興した浦上玉堂と会津藩士として戊辰戦争までを生きその子・秋琴の作品を紹介した。

(キ) 展示構成

- 天下統一から名君の時代へ
- 大名文化の精華

- c 林原一郎コレクション
- d 浦上玉堂と秋琴
- (ク) 関連事業
 - a 講演会「備前刀の魅力と岡山池田家の名刀」
10月7日(金)
講師 原田 一敏(ふくやま美術館館長)
 - b 講演会「林原美術館コレクションの形成～林原一郎と池田家～」
10月29日(土)
講師 谷 一尚(林原美術館館長)
 - c お城のことがよくわかる講座「若松城と岡山城
東と西の名城の秘密」
11月26日(土)
講師 小野田 伸(岡山市観光振興課学芸員)、
高橋 充(当館副館長)
 - d 林原美術館学芸員による展示解説会
10月8日(土)、11月6日(日)、12月4日(日)
講師 橋本 龍、槌田 祐枝(林原美術館学芸員)
 - e 展示解説会
10月16日(日)
 - f ワークショップ「書に触れる 書をひもとく」
10月8日(土)
講師 千葉 清藍(書家/筆跡診断士)、橋本 龍
(林原美術館学芸員)、高橋 充(当館副館長)
- エ 冬の企画展「写真展 福島、東北 写真家たちが捉えた風土/震災」
 - (ア) 会期 令和5年1月21日(土)～3月19日(日)
開館日数 49日間
 - (イ) 会場 企画展示室
 - (ウ) 主催 福島県立博物館
 - (エ) 入館者数 3,033人
 - (オ) 担当学芸員 美術分野：川延 安直・小林 めぐみ
・塚本 麻衣子・原 恵理子
 - (カ) 趣旨
東日本大震災後、被災状況ではなく、東北の魅力、特徴を広く世界に紹介する展覧会が国際交流基金によって行われた。2012年春から始まった世界各地での巡回展後、2021年国際交流基金のご厚意により10作家123点の作品が福島県立博物館に寄贈された。これらの作品は多面的な東北をテーマにしていると同時に、日本を代表する写真作品の優れたコレクションでもある。また、震災直後から現在も福島を拠点に福島を見つめ続け、普遍的な作品を精力的に制作し、近年高い評価を得ている3人の写真家・岩根愛、岩波友紀、村越としや各氏の作品を紹介した。
 - (キ) 展示構成
 - a 東北一風土・人・くらし
 - b 福島一3人が捉えた震災後
- (ク) 関連事業
 - a アーティストトーク「3人が捉えた福島/震災」

令和5年1月21日(土)
講師 岩根 愛(写真家)、岩波 友紀(写真家)、
村越 としや(写真家)

- b 展示解説会
2月25日(土)
講師 谷 一尚(林原美術館館長)
- c アーティストトーク「私の場合」
3月12日(日)
講師 畠山 直哉(写真家)

(3) 指定文化財の公開

令和4年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った(館蔵・寄託品などは除く)。

ア 国指定

- 〈国宝〉
- (ア) 短刀 無銘 伝正宗(名物九鬼正宗) 1振 林原美術館
- (イ) 太刀 銘 吉房 1振 林原美術館
- (ウ) 太刀 銘 備前国長船住左近将監長光造 1振 林原美術館
(以上3件は企画展「名君の大名文化」にて展示公開)
〈重要文化財〉
- (ア) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会(福島県)
(総合展示室：原始にて展示公開)
- (イ) 菊御紋付赤間関御硯 1点 京都市歴史資料館(京都府)(企画展「新選組展2022」にて展示公開)
- (ウ) 能装束 菊橘文縫箔 1領 林原美術館(岡山県)
- (エ) 能装束 紅白段桜花文摺箔 1領 林原美術館(岡山県)
- (オ) 能装束 紅白締切菊桐文段替唐織 1領 林原美術館(岡山県)
- (カ) 能装束 紅地山桜円文蔓草模様縫箔 1領 林原美術館(岡山県)
- (キ) 綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度 貝桶・彩色貝 1対 林原美術館(岡山県)
- (ク) 太刀 銘 近包 1振 林原美術館(岡山県)
- (ケ) 太刀 銘 正恒 1振 林原美術館(岡山県)
- (コ) 太刀 銘 一 1振 林原美術館(岡山県)
- (サ) 太刀 銘 助真 1振 林原美術館(岡山県)
- (シ) 太刀 銘 備前国長船住左近将監長光造/正応二年十月日 1振 林原美術館(岡山県)
- (ス) 紺糸威胴丸 兜・大袖付 1領 林原美術館(岡山県)
- (セ) 清明上河図 1領 林原美術館(岡山県)
(以上12件は企画展「名君の大名文化」にて展示公開)
- イ 県指定(福島県指定)
〈重要文化財〉
- (ア) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県
- (イ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市
- (ウ) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市
- (エ) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品 4点

会津坂下町

(以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開)

(4) 展示解説

ア 展示解説員

令和4年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

前年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大にともない、接触の多い様々な場所や物への消毒作業、来館者の密を避けるための展示室内の人数管理、さらに設定人数を超過した場合の人数制限措置の実施などを継続した。

来館者に対する解説を補うために、動画「常設展示室ワンポイント解説」12本を作成し、常設展示室西レストコーナーでの放映を開始した。また、学校団体の事前学習に利用できるよう、展示室全体を見渡すことのできる「通し解説動画」を作成し、今後の活用方法を検討している。体験学習室前廊下などに季節のメッセージボードを出すなど、来館者が参加して楽しむことのできる工夫を施した。

イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。令和4年度は年間271回を数えた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を受け、企画展・特集展の展示室における展示解説は原則として休止し、代替措置として講堂でのパワーポイントを使用した「みどころ解説会」を開催した。またテーマ展・ポイント展の解説会は、講堂での開催の場合は当日申込み・講堂定員まで、展示室での開催の場合は事前申込み・少人数開催として催行した。

(5) 体験学習室

エントランスホール隣の無料空間に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。令和4年度は「三の丸からプロジェクト」による無料空間整備事業として、ものづくり文化を体験・学ぶことのできるスペースへとリニューアルした。またこれに合わせて、名称を「雪国ものづくり広場なんだべや」と改称した。リニューアルにより、空間をより可変的に使えるようになったため、ワークショップから小規模のトークイベントまで、利用の幅が広がることとなった。

また、「冬場に子どもを遊ばせられる場所が少ない」という地域課題に取り組むため、1月と2月に「こどもミニミニはくぶつかん」を開催。従来冬場は閑散期として認識されており、イベント等の開催が敬遠されてきたが、この冬のイベントでは4日間で350名以上の来館を得ることができた。イベント内容によっては冬場の集客も十分に可能であることがわかるとともに、今後の運営についても更に改善の余地があることを認識した。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和4年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

前年度に引き続き、県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。また県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪(館蔵)のうち円筒埴輪の3D計測を実施するとともに形象埴輪片の接合再確認作業を開始し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細観察・比較が可能となるデータ整備を行った。

イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 民俗・考古・歴史・自然・災害分野

(イ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換や解説員とのワークショップを行い、来館者から求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設に関しても、現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として、東日本大震災までを検討範囲とした。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。

ウ 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。学術的価値の検討のため、南相馬市産中生代生痕化石と郡山市産新生代生痕化石についても調査した。

エ 近世・近代絵地図の研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

主に福島県立図書館、会津若松市立会津図書館、防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵の絵図・地図等の資料を調査した。成果の一部は、企画展「新選組展2022-史料から辿る足跡」に反映したほか、令和5年度のポイント展でも公表の予定である。

オ 福島県内の食文化の伝承に関する研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

伝統的な保存食の一つである「凍み餅」作りについて、昭和村小野川食品加工グループの協力を得て、冬季の一連の製作の流れを記録撮影・調査するとともに、製作委託により現物を展示資料として提供いただいた。また、保存食として「藁づと納豆」、行事食と

して「盆のかけそうめん」及びどぶろく造りに関連して、いわき市勿来町國魂神社の「粕搦み神事の神饌」の食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

カ 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

行政文書を調査対象として、福島県歴史資料館寄託資料、宮城県公文書館所蔵資料等を中心に複写し、読解を進めている。

キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術分野

(イ) 調査概要

令和3年度に調査を行った南会津町薬師寺の薬師如来像、阿弥陀如来像について、共に調査を行った栃木県立博物館学芸員・深沢麻亜沙氏を招き、美術講座「下野からやってきた！南会津・田島の仏像」で調査結果等について講演・報告を行った。喜多方市長泉寺の仏像・仏画を調査し、その結果を地域の方に紹介する機会を設け、地域の文化財の認知や保存への意識の向上に向けた取り組みを行った。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

坂内（利）家・年野家・高橋（恵）家の資料整理を行い、このうち高橋（恵）家資料については登録まで終了した。また登録済みだが、未公開であった諸家資料を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

三野 行徳・阿部 綾子・栗原 祐斗・佐藤 稜介
・西山 剛『新選組展 2022』展示図録

猪瀬 弘瑛・望月 貴史・横田 昭彦・吉田 純輝
「福島県郡山市に分布する中部中新統堀口層から螺旋状生痕化石 *Gyrolithes* の発見」『福島県立博物館紀要』第 37 号

安藤 寿男・鈴木 大河・田口 翔太・平 宗雄・猪瀬 弘瑛「相馬中村層群最上部小山田層（白亜紀最前期）の層序・堆積相・化石相」『福島県立博物館紀要』第 37 号

相場 博明・鈴木 千里・猪瀬 弘瑛「福島県いわき市上部白亜系双葉層群玉山層からのコハクに含まれる化石とその産出意義」『福島県立博物館紀要』第 37 号

久保 貴志・猪瀬 弘瑛・安里 開士・望月 貴史・菜花 智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層のコンボウガキ属密集層の古環境と古生態」日本古生物学会 第 172 回例会講演予稿集

内山 大介「災禍の時代に向き合う博物館展示－東

日本大震災から新型コロナまで－』『日本民俗学』第 310 号（特集 日本民俗学の研究動向 I）pp. 156-172

内山 大介「コメント 大字誌の特徴と民俗誌」『地域住民と共有する歴史と文化－大字誌の地平－』pp. 55-60

内山 大介「台湾 921 集集大地震と震災史を伝えるミュージアム」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築－国際比較の観点から－』（科学研究費補助金基盤研究 (A) 成果報告書）pp. 61-71

大里 正樹「ウクライナ・チェルノブイリ原発事故関係現地視察報告」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築－国際比較の観点から－』（科学研究費補助金基盤研究 (A) 成果報告書）

杉崎 佐保恵「考古アカデミックレポート 金銅製品の保存について」『月刊考古学ジャーナル』767 号 p. 48-50

高橋 充・竹谷 陽二郎「慶長会津地震と西会津町大杉山村の供養塔について」『福島県立博物館紀要』第 37 号

高橋 満「東北地方の縄文製塩の特徴」『季刊考古学』別冊 38

高橋 満「福島の震災遺産及びその保存活用」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築－国際比較の観点から－』（科学研究費補助金基盤研究 (A) 成果報告書）

筑波 匡介「インドネシア津波被災遺構とミュージアム・メモリアル」『防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築－国際比較の観点から－』（科学研究費補助金基盤研究 (A) 成果報告書）

吉田 純輝、小林 快次、アンソニー・フィオリロ「現生主竜類における舌喉頭筋骨格系のネットワーク解析と進化的考察」日本古生物学会第 172 回例会講演予稿集

Fiorillo, A. R., McCarthy, P., Kobayashi, Y., & Yoshida, J., (2022). Ichnological insights on habitat preferences within high-latitude hadrosaurs (Cretaceous Chignik Formation, Aniakchak National Monument, southwestern Alaska). *GSA Connects 2022 meeting in Denver Abstract Book*

Yoshida, J., Kobayashi, Y., & Fiorillo, A. R. (2023). Evolutionary insights from an anatomical network analysis of the hyolaryngeal apparatus in extant archosaurs (birds and crocodylians). *The Anatomical Record*.

Yoshida, J., Kobayashi, Y., & Norell, M. A. (2023). An ankylosaur larynx provides insights for bird-like vocalization in non-avian dinosaurs. *Communications Biology*, 6(1), 152.

Yoshida, J., Takahashi, S., & Nabana, S. (2023). A crocodyliform osteoderm from the Tamayama Formation (Upper Cretaceous) of Fukushima, Japan. *Bulletin of the Fukushima Museum*, 37, 29-36.

(イ) 学会発表

久保 貴志・猪瀬 弘瑛・安里 開士・望月 貴史・菜花 智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層のコンボウガキ属密集層の古環境と古生態」日本古生物学会第172回例会
内山 大介「会津における昭和戦後の民俗研究―山口弥一郎とその周辺―」福島県民俗学会令和4年度大会

内山 大介「博物館資料を通じた記憶の継承―福島県立博物館の取り組み―」公害資料館ネットワーク「公害資料館連携フォーラム企画「福島の経験を継承する」」

大里 正樹「ふくしまの民俗行事と神社」令和4年度福島県教育関係神職協議会発足60周年記念教養研修会

高橋 満「縄文人の塩づくり」是川縄文館後期考古学講座第2回

筑波 匡介「東日本大震災から11年 福島県」磐梯山噴火記念館特別展シンポジウム

筑波 匡介「博物館を利用した授業・講座づくり～防災講座を事例に～」公害資料館ネットワーク公害資料館連携フォーラム企画「福島を継承する」

佐藤 公・筑波 匡介・瀬戸 真之「12年前の東日本大震災を全国の人に伝える」全国科学博物館研究発表大会

吉田 純輝、小林 快次、アンソニー・フィオリロ「現生主竜類における舌喉頭筋骨格系のネットワーク解析と進化的考察」日本古生物学会第172回例会

Fiorillo, A. R., McCarthy, P., Kobayashi, Y., & Yoshida, J. (2022). Ichnological insights on habitat preferences within high-latitude hadrosaurs (Cretaceous Chignik Formation, Aniakchak National Monument, southwestern Alaska). *Geological Society of America 2022 meeting in Denver*

6 教育普及事業

ア 他団体による委嘱等

- 阿部 綾子 : 相馬市史編さん調査執筆員ほか3件
- 猪瀬 弘瑛 : ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター
- 内山 大介 : 郡山市文化財保護審議会委員ほか11件
- 大里 正樹 : 会津坂下町史編さん専門委員ほか7件
- 川延 安直 : 喜多方市美術館収集委員会委員ほか8件
- 栗原 祐斗 : 熊谷市史編集委員
- 小林 めぐみ: 福島芸術計画運営委員会委員ほか10件
- 高橋 充 : 二本松城跡整備検討委員会委員ほか15件
- 高橋 満 : 資源利用史研究クラスター研究推進員 明治大学
- 田中 敏 : 会津坂下町史編さん委員ほか4件
- 塚本 麻衣子: 喜多方市文化財保護審議委員ほか1件
- 筑波 匡介 : 長岡造形大学非常勤講師ほか3件
- 原 恵理子 : 大堀相馬焼伝統工芸産地委員会委員ほか2件
- 山口 拓 : 会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員

イ 研究助成金等

- 杉崎 佐保恵: 科研費・奨励研究「古墳時代の金属製象嵌製品の製作技法の解明と保存修復のための診断技術の確立」
- 高橋 満 : 科研費・基盤研究(C)「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者
- 高橋 満 : 科研費・基盤研究(A)「日本列島における製塩技術史の解明」研究分担者
- 吉田 純輝 : 科研費・若手研究「鳥類固有の発声器の発生学的研究～「鳴管」の形態形成機構と起源の解明～」研究代表者

(1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和4年度の各講座開催数は109、総参加者数は7,976人であった。

ア 令和4年度講座・講演会等行事一覧

(ア) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座①「詩人のいる博物館 文学とミュージアム 山口・福島 詩が結ぶ新たなきずな」	和合 亮一 (詩人) 中原 豊 (中原中也記念館長)	令和4年9月3日(土)	70

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座②「詩人のいる博物館 文学とミュージアム 文学館は建物ではない、出来事だ」	和合 亮一（詩人） 萩原 朔美（萩原朔太郎記念・ 水と緑と詩のまち前橋文学館長）	令和5年1月29日（日）	58
特別講座③「詩人のいる博物館 文学とミュージアム 言葉と生きる 文学・東北・震災」	和合 亮一（詩人） 佐伯 一麦（小説家・仙台文学館館長）	令和5年3月18日（土）	54

(イ) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
縄文土器をつくろう	高橋 満・山本 俊（学芸員）	令和4年7月30日（土） 令和4年7月31日（日）	10
縄文土器の野焼き	当館考古分野学芸員	令和4年10月2日（日）	10
つくって学ぶ会津大塚山古墳	山本 俊・平澤 慎（学芸員）	令和4年11月20日（日）	3
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤 慎（学芸員）	令和4年11月23日（水）	7
勾玉をつくろう	田中 敏・平澤 慎（学芸員）	令和5年3月25日（土）	14

(ウ) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
記録映像で見るふくしまのくらし①		令和4年4月17日（日）	17
記録映像で見るふくしまのくらし②		令和4年5月15日（日）	7
記録映像で見るふくしまのくらし③		令和4年6月19日（日）	10
記録映像で見るふくしまのくらし④		令和4年7月17日（日）	4

(エ) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①	高橋 充（副館長）	令和4年5月21日（土）	22
はじめてさんの古文書講座②	高橋 充（副館長）	令和4年5月28日（土）	20
はじめてさんの古文書講座③	高橋 充（副館長）	令和4年6月4日（土）	19
かじったさんの古文書講座①	栗原 祐斗（学芸員）	令和4年11月5日（土）	23
かじったさんの古文書講座②	阿部 綾子（学芸員）	令和4年11月19日（土）	24

(オ) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
鶴ヶ城の野鳥	古川 裕司（野鳥研究家）	令和4年11月13日（日）	9

(カ) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
壬申検査150年 正倉院宝物の保存の歴史をまなぼう！	杉崎 佐保恵（学芸員）	令和4年8月20日（土）	6
壬申検査150年 博覧会事務局と文化財保護	杉崎 佐保恵（学芸員）	令和4年11月27日（日）	12
高松塚古墳壁画発見50周年 高松塚古墳壁画保存についてふりかえる	杉崎 佐保恵（学芸員）	令和4年12月24日（土）	5

(キ) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
美術放談1「白をめぐる」	塚本 麻衣子・原 恵理子・川延 安直（学芸員）	令和4年4月29日（金）	16
民藝作家と地方窯	川北 裕子（パナソニック汐留美術館学芸員）	令和4年5月22日（日）	18
美術放談2「殿と姫の美術」	小林 めぐみ・塚本 麻衣子・川延 安直（学芸員）	令和4年6月24日（金）	18
下野からやってきた！南会津・田島の仏像	深沢 麻亜沙（栃木県立博物館学芸員）	令和4年7月2日（土）	29
美術放談3「神の顔れ・女の姿」	小林 めぐみ・塚本 麻衣子・川延 安直（学芸員）	令和4年8月26日（金）	12
美術放談4「絵を売らなかった画人・浦上玉堂」	小林 めぐみ・塚本 麻衣子・川延 安直（学芸員）	令和4年10月28日（金）	48
美術放談5「欲だらけの美術」	小林 めぐみ・塚本 麻衣子・川延 安直（学芸員）	令和5年1月27日（金）	21
美術放談6「折り紙付きー美術の価値づけ」	小林 めぐみ・原 恵理子・川延 安直（学芸員）	令和5年3月24日（金）	35

(ク) 防災講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
楽しいそなえ	筑波 匡介 (学芸員)	令和4年9月1日(木)	12
震災遺産を考える	筑波 匡介 (学芸員)	令和4年9月4日(日)	10

(ケ) 企画展・特集展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「アンモナイト合戦」内覧会(友の会・報道向け)		令和4年4月22日(金)	16
企画展「アンモナイト合戦」見どころ解説会	猪瀬 弘瑛 (学芸員)	令和4年4月23日(土) 令和4年6月19日(日)	11 32
講演会「アンモナイトと同時代の生き物たちー恐竜、ワニー」	吉田 純輝 (学芸員)	令和4年5月4日(水)	56
自然史講座「アンモナイトをさがそう」	吉田 純輝 (学芸員)	令和4年5月21日(土)	18
自然史講座「化石標本をつくろう」	猪瀬 弘瑛 (学芸員)	令和4年5月22日(日)	14
講演会「アンモナイトの不思議」	重田 康成 (国立科学博物館 地学 研究部 グループ長)	令和4年6月11日(土)	53
企画展「新選組展 2022」内覧会		令和4年7月22日(金)	25
企画展「新選組展 2022」見どころ解説会	当館学芸員	令和4年7月23日(土)	42
		令和4年8月13日(土)	21
		令和4年8月27日(土)	35
		令和4年9月3日(土)	46
		令和4年9月17日(土) 令和4年9月18日(日)	45 31
記念対談「ダブル子孫で語る～土方歳三と和泉守兼定～」	土方 愛 (土方歳三資料館館長) ハーバート真理子 (フリーライター)	令和4年7月30日(土)	74
記念講演会①「新選組局長・近藤勇を読み直す」	三野 行徳 (昭和女子大学専任講師)	令和4年8月6日(土)	88
木刀絵付け体験「オリジナル刀剣をつくろう」	当館学芸員	令和4年8月11日(木)	29
天然理心流演武	宮川 清蔵 (天然理心流九代目 宗家、近藤勇御子孫) 天然理心流勇武館の皆さん	令和4年8月28日(日)	81
記念講演会②「新選組と会津藩」	大石 学 (東京学芸大学名誉教授)	令和4年9月10日(土)	83
企画展「名君の大名文化」内覧会		令和4年10月6日(木)	30
講演会「備前刀の魅力と岡山池田家の名刀」	原田 一敏 (ふくやま美術館館長)	令和4年10月7日(金)	50
林原美術館学芸員による展示解説会	橋本 龍 (林原美術館学芸員)	令和4年10月8日(土)	22
		令和4年11月6日(日)	36
		令和4年12月4日(日)	34
ワークショップ「書に触れる書をひもとく」	千葉 清藍 (書家) 橋本 龍 (林原美術館学芸員) 高橋 充 (副館長)	令和4年10月8日(土)	9
福島県立博物館学芸員による展示解説会	塚本 麻衣子・原 恵理子 (学芸員)	令和4年10月16日(日)	41
講演会「林原美術館コレクションの形成～林原一郎と池田家」	谷一 尚 (林原美術館館長)	令和4年10月29日(土)	35
お城のことがよくわかる講座「若松城と岡山城 東と西の名城の秘密」	小野田 伸 (岡山市観光振興課学芸員) 高橋 充 (副館長)	令和4年11月26日(土)	41
企画展「写真展 福島、東北」内覧会(友の会・報道向け)		令和5年1月20日(金)	12
アーティストトーク「3人が捉えた 福島／震災」	岩根 愛・岩波 友紀・ 村越 としや (写真家)	令和5年1月21日(土)	25
学芸員による展示解説会「写真展 福島、東北」	小林 めぐみ・川延 安直 (学芸員)	令和5年2月25日(土)	22
講演会「私の場合」	畠山 直哉 (写真家)	令和5年3月12日(日)	30

(ロ) テーマ展・ポイント展ミニ解説会

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
トークイベント「次世代へつなぐ刺し子の文化」	南郷刺し子会・内山 大介(学芸員)	令和4年4月24日(日)	38
ポイント展「松平容大の種痘」ミニ解説会	阿部 綾子(学芸員)	令和4年5月29日(日)	12
ポイント展「伊達政宗と会津攻め」ミニ解説会	高橋 充(副館長)	令和4年7月3日(日)	15
ポイント展「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」ミニ解説会	友の会化石鉱物探検隊のみなさん	令和4年8月7日(日)	6
ポイント展「軍事郵便が繋いだ絆」ミニ解説会	栗原 祐斗(学芸員)	令和4年8月14日(日)	3
ポイント展「ふくしま草食恐竜展」ミニ解説会	吉田 純輝(学芸員)	令和4年8月21日(日)	15
中ノ沢こけしワークショップ～こけしに絵付けをしてみよう	柿崎 文雄(中ノ沢こけし工人)	令和4年8月21日(日)	12
ポイント展「みんなの震災遺産」ミニ解説会	筑波 匡介(学芸員)	令和4年9月11日(日)	109
ポイント展「古墳から見つかったお経」ミニ解説会	平澤 慎(学芸員)	令和4年9月18日(日)	7
テーマ展「中ノ沢こけし～ふくしまの郷土玩具～」解説会	山口 拓(学芸員)	令和4年9月25日(日)	10
ポイント展「会津藩の歴史編纂と山川兄弟」ミニ解説会	栗原 祐斗(学芸員)	令和4年10月16日(日)	9
ポイント展「保科正之の遺言」ミニ解説会	阿部 綾子(学芸員)	令和4年11月6日(日)	14
ポイント展「器から探る古墳時代の暮らし」ミニ解説会	田中 敏(学芸員)	令和4年11月13日(日)	11
ポイント展「鉄道と地域の発展」ミニ解説会	栗原 祐斗(学芸員)	令和4年12月11日(日)	6
テーマ展「写真資料からみる会津の風景」解説会	大里 正樹(学芸員) 長島 雄一(資料整理ボランティア)	令和4年12月11日(日) 令和5年1月15日(日)	12 5
ポイント展「上杉景勝とふくしま」ミニ解説会	高橋 充(副館長)	令和5年2月5日(日)	14
ポイント展「ふくしまの蕨手刀」ミニ解説会	山本 俊(学芸員)	令和5年2月5日(日)	7

(ハ) ミュージアムイベント

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
昔話とふるさとの民謡～唄と琴にのせて～	玄如節顕彰会	令和4年6月18日(土)	50
会津磐梯山市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	令和4年8月14日(日)	72
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	令和4年8月20日(土)	54
けんぱくクリスマスコンサート	榑原 聡子(ピアノ)、竹内 永和(ギター)	令和4年12月11日(日)	28
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会	令和5年3月5日(日)	53

(シ) 子育て世代対応事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館でもよみきかせ	おはなしのへや／たんぼぼの会	令和4年4月9日(土)	7
	ハーモニー／心に虹のおはなし会	令和4年5月14日(土)	50
	手づくり絵本の会	令和4年6月11日(土)	21
	ハーモニー／会津短大あそびサークル	令和4年7月9日(土)	3
	おはなしのへや／会津短大あそびサークル	令和4年8月13日(土)	40
	マザーグース／おはなしの会ゆがわ	令和4年9月10日(土)	20
	坂下読み聞かせの会	令和4年10月8日(土)	10
	おはなしのへや／当館学芸員	令和4年11月12日(土)	12
子どもミニミニはくぶつかん		令和4年5月3日(火) ～5月5日(木)	391
		令和4年8月11日(木) ～8月14日(日)	313
親子で探検！はくぶつかんのウラ側	当館学芸員	令和4年8月21日(日)	12
子どもミニミニはくぶつかん～ものづくりとICTで遊ぼう～	会津大学短期大学部幼児教育学科・会津大学 コンピューター理工学部	令和5年1月21日(土)	89
子どもミニミニはくぶつかん～木のおもちゃで遊ぼう～		令和5年2月17日(金) ～2月19日(日)	261

(ス) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
わら細工ワークショップ	大里 正樹・山口 拓 (学芸員)	令和5年1月22日(日)	53
集まれ彼岸獅子！～シシのお面を作ろう～	山口 拓 (学芸員)	令和5年2月26日(日)	15

(セ) 三の丸からプロジェクト

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
雪国ものづくりマルシェ・春		令和4年5月7日(土) ～5月8日(日)	1,955
雪国ものづくりマルシェ・秋		令和4年10月9日(日) ～10月10日(月)	1,730
演武！AIZU 居合道～北辰一刀流如水派～	中山 健一 (北辰一刀流如水派宗師) 宗像 英男 (北辰一刀流如水派師範)	令和4年10月15日(土)	53
刀剣鑑賞会	渡邊 明 (日本美術刀剣保存協会会津支部長)	令和4年10月15日(土)	19
酒蔵で謡を楽しむ会	会津能楽会のみなさん	令和4年10月22日(土)	19
刀剣鑑賞講座	藤安 将平 (将平鍛刀場 刀匠)	令和4年10月30日(日)	17
茶道体験	曾根 藤子 (石州流会津若松支部長)	令和4年11月3日(木)	12
講演会「会津の食と酒、漆器」	平出 美穂子 (福島の食文化研究家・管理栄養士)	令和4年11月12日(土)	14
見て触れて、能を体験してみよう	会津能楽会のみなさん	令和4年11月19日(土)	13
会津松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ	茶道石州流宗家会津支部のみなさん	令和4年11月20日(日)	47
カラムシの繊維でコースターを織ろう！	奥会津昭和村振興公社のみなさん	令和4年12月10日(土)	9
ミニトレーをつくろう～蒔絵に挑戦！	八木 由紀子・佐藤 淳 (蒔絵師)	令和5年1月22日(日)	12
会津本郷焼の器をつくろう	宗像 利訓 (宗像窯9代目)	令和5年1月28日(土)	8
会津木綿でじんわりほかほか小豆カイロをつくろう	田崎 薫 (株式会社はらっぱ)	令和5年2月11日(土)	21
またたびで花結びブローチをつくろう	市川 里美 (またたび工房・癒里)	令和5年2月23日(木)	10
またたびザルをつくろう	菅家 豊 (編み組細工職人)	令和5年3月4日(土)	5

(ソ) 特別プログラム

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会	当館学芸員	令和5年2月7日(火)	21

(タ) 共催事業

テーマ	主催	期日	参加人数
会津短大公開講座		令和4年5月15日(日)	17
福島県民俗学会大会	福島県民俗学会	令和4年6月5日(日)	30
会津史学会歴史文化講演会「会津の絵画 －雪村から芋銭まで－」	川延 安直 (学芸員)	令和4年10月23日(日)	46
spff サイエンス屋台村 in 会津若松		令和4年11月26日(土)	41
保科正之公没後 350 年記念講演会 直木賞 作家中村彰彦氏が語る、「会津藩を支えた 田中家の系譜」	中村 彰彦 (歴史作家)	令和4年12月3日(土)	105

(チ) 後援事業

テーマ	主催	期日	参加人数
会津民俗研究会公開講演会	会津民俗研究会	令和5年3月19日(日)	20

(ツ) 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
実技講座「鉱物標本をつくろう」	友の会化石鉱物探検隊のみなさん	令和4年8月7日(日)	14
博物館友の会講演会「会津の大地の生い立ち」	竹谷 陽二郎 (磐梯山ジオパーク協議会運営委員長)	令和4年10月2日(日)	69

(2) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

新型コロナウイルス感染防止対応のため、展示室での密集を避け常設展示室を各自のペースで見学できるワークシート（「キミだけの「たからもの」をさがそう！」）を当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。また、親子で来館された利用者向けには、文化庁の「令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用し、ポリフォニックミュージアムアートワークショップ「博物館部」で作成したワークシート（「博物館でどうぶつさがし」）を常設展入口や体験学習室に設置した。

イ 学習プログラム

課外授業・修学旅行の学校団体に対し、常設展示の見どころや概要を伝える学習講座を多数開催した。

公民館や地域のコミュニティセンターなどの団体には、企画展見どころ解説のプログラムをご利用いただいた。また、特別支援学校や未就学児の教育・保育施設（幼稚園・こども園等）の団体に対しては、事前に先生方との打合せの時間を十分にとり、園児・児童・生徒の理解や興味関心などの実態を把握した上で、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自のプログラムを作成、提案した。

ウ 未就学児団体連携事業

前年度の試行の検証を踏まえて、「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。「認定こども園こどもの森」「若松乳児院」など新規の園や施設の利用もあり、延べ14回実施した。

エ 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラム提供などを通年で実施した。先生方と事前の打合せを行い、授業のねらい、児童・生徒の障がいや興味関心などの実態把握をした上で、延べ13回実施した。

オ 指導者向け研修

今年度は「博物館を活用した学びプログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。博物館のもつ多様な学習プログラムを伝えることで、学校や公民館における当館の活用の推進を図った。教員及び各市町村の生涯学習に携わる方の参加がみられた。

・令和5年2月7日(火) 21名の参加

カ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、貸出事業は停止となった。またこれを機に、各分野にて貸出用具・教材

の見直しを図り、再開への準備を整えた。

キ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和4年度の実施回数は41回で、参加者は3,218人であった。

ク 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和4年度は5校からの要請があり、受け入れを実施した。

○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・会津若松市立第一中学校（2年生：1名） 1日間
- ・会津若松市立第二中学校（2年生：2名） 1日間
- ・会津若松市立第四中学校（2年生：2名） 1日間
- ・会津若松市立湊中学校（3年生：1名） 1日間
- ・福島県立会津支援学校（高等部：8名） 1日間

ケ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和4年度は県内出身学生9名を受け入れた。

実習期間 令和4年8月23日(火)～28日(日)

(3) 生涯学習・研究支援

ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,994冊である。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：7件23点 歴史：20件326点 民俗：5件86点
美術：1件1点 自然：3件8点 計36件444点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和4年度の派遣回数は31回で、参加者は1,446人であった。

講師派遣一覧

月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
令和4年5月6日(金)	筑波 匡介	災害	防災・減災についての基礎基本について、災害時の避難行動について	国立磐梯青少年交流の家
令和4年5月12日(木)	高橋 充	歴史	蒲生氏郷の人物像とまちづくりについて	会津若松観光ルネッサンス協議会
令和4年5月21日(土)	原 恵理子	美術	会津本郷焼と一重孔希	塩川公民館・北方風土倶楽部
令和4年6月3日(金)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える(オンライン)	龍谷大学
令和4年6月8日(水)	高橋 満		近年の特別展・企画展の動向	文化庁
令和4年6月10日(金)	筑波 匡介	災害	防災講座「楽しい備え」	二本松市立岳下公民館
令和4年6月18日(土)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える・ワークショップ	福島大学
令和4年6月26日(日)	筑波 匡介	災害	楽しいそなえ	国立磐梯青少年交流の家
令和4年7月9日(土)	小林 めぐみ	美術	地域とミュージアムー福島県立博物館の実践から	福島大学
令和4年7月26日(火)	阿部 綾子	歴史	くずし字で読み解く新選組	小学校教育研究会両沼地区国語科研究部
令和4年7月29日(金)	内山 大介	民俗	山口弥一郎の教育実践と郷土研究ー戦後社会科との関わりからー	福島県高等学校地理歴史・公民科(社会科)研究会
令和4年8月3日(水)	高橋 満		近年の特別展・企画展の動向	文化庁
令和4年8月6日(土)	筑波 匡介	歴史	博物館の防災教育(オンライン)	中越防災安全推進機構
令和4年8月9日(火)	小林 めぐみ	美術	漆芸×活用・協働	喜多方市
令和4年9月4日(日)	小林 めぐみ	美術	会津漆器とその歴史について	「感動事業」を創出する次世代育成事業実行委員会
令和4年9月7日(水)	高橋 充	歴史	福島県の城・町・博物館	福島県立医科大学
令和4年9月10日(土)	筑波 匡介	災害	楽しいそなえ・工作	昭和村公民館
令和4年9月14日(水)	栗原 祐斗	自然	福島県の観光の歴史	福島県立医科大学
令和4年9月21日(水)	大里 正樹	民俗	福島県の民俗文化と現代社会	福島県立医科大学
令和4年9月22日(木)	原 恵理子	美術	大堀相馬焼の歴史(オンライン)	大堀相馬焼協同組合
令和4年9月27日(火)	高橋 充	歴史	蒲生氏郷の人物像とまちづくり	会津若松ルネッサンス協議会
令和4年9月28日(水)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える	福島県立医科大学
令和4年10月16日(日)	高橋 充	歴史	鎌倉幕府と喜多方	喜多方市教育委員会
令和4年10月29日(土)	阿部 綾子	歴史	保科正之の遺言	猪苗代の偉人を考える会
令和4年11月19日(土)	吉田 純輝	自然	第41回福島県高等学校総合文化祭自然科学部門／第35回福島県高等学校生徒理科研究発表会 ポスター発表審査委員	福島県高等学校文化連盟自然科学専門部会
令和4年12月17日(土)	内山 大介	民俗	祭りと行事の民俗文化ー相馬と会津の地域性ー	相馬郷土研究会
令和5年1月29日(日)	高橋 満	考古	縄文人の塩づくり	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
令和5年1月29日(日)	塚本 麻衣子	美術	会津の三十三観音めぐりと仏像	極上の会津プロジェクト協議会
令和5年2月7日(火)	筑波 匡介	災害	楽しいそなえ	会津若松市南公民館
令和5年2月19日(日)	高橋 充	歴史	江戸時代の会津の三十三観音めぐり	極上の会津プロジェクト協議会
令和5年3月4日(土)	高橋 充	歴史	天正17年 伊達政宗の只見をめぐる戦い	会津只見史談会

エ 子育て世代対応事業

「博物館でもよみかせ」親子で探検！博物館のウラ側」「こどもミニミニ博物館」を実施したほか、読み聞かせボランティア団体として連携している会津大学短期大学部幼児教育学科の先生・学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案しワークショップを実施した。

オ 動画の制作と配信

前年度から引き続き、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもと動画の制作と配信を行った。令和4年度は11本の動画を公開した。

(4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して当館開催事業の周知、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(エ) 令和4年度会員数

個人会員：129 家族会員：29 高校生会員：0
賛助会員：4 合計：162

イ 令和4年度事業概要

(ア) 講演会の開催

1回の講演会を開催した。内容と日時は「6-(1)-(ウ) 友の会事業」を参照。

(イ) 研修旅行

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第127号・第128号・第129号を発行し会員に配布した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立。会員数40名。令和4年度はミニ成果展のほか学習会などを行った。

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時17名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは4つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。

通常月1回の活動計画であるが、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同会の判断もあり6回の開催にとどまった。

(ウ) 考古学倶楽部

考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、令和3年4月に発足した。研修会や考古学関連の展覧会の見学を行った。

(エ) 仏像を研究し旅する会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。会員は11名。本年度は会津若松市をはじめ、周辺の寺院を訪れての仏像見学を全5回行った。併せて、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

7 文化財・自然資料レスキュー

(1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和4年度には次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」（当館は副代表・幹事・事務局）に参画して活動した。今年度は会議1回（令和4年6月29日）に出席した。

イ 被災地域の資料への対応

当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

(2) その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。6月29日には「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議がオンラインで開催された。

また、令和4年3月に発生した福島県沖地震の被災文化財レスキュー作業に、以下の通り参加した。

- ・令和4年7月18日 相馬市田代駒焼作業場のクリーニング
- ・令和5年3月5日 相馬市内個人宅蔵解体に伴う緊急調査

8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業とし

て、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

(1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。今年度は民俗1名、歴史1名、自然1名、美術1名、災害2名の計6名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、ポイント展の実施を行った。

(2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産に関わる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめるとともに未整理資料の整理を進めた。写真撮影を行い、中性紙封筒へ納めるなどした。

前年度末より引き続き、新型コロナウイルス関連資料の収集を継続している。震災遺産類として東日本大震災との比較資料と位置づけた。

(3) 他団体・他機関との連携・協力

公害資料館ネットワークが実施を予定しているシンポジウムに実行委員会として加わり、イベントに登壇した。磐梯山ジオパーク運営協議会とも防災教育の普及活動を新たに展開した。博物館資料展示活用アウトリーチ事業として、磐梯山噴火記念館、東日本大震災原子力災害伝承館とみおかアーカイブ・ミュージアムと二回開催することができた。会津自然の家や磐梯山青少年交流の家との連携も定例化した。協力体制をとってきた筑波大学の科研費報告書作成に参加した。

(4) 普及事業

ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの対応回数が50回を超えた。小・中学校の教科書が改訂され、防災教育に対しての需要が増えたことも大きい。地域社会のニーズとマッチしたものと考えている。アンケート調査も行い、ニーズや課題を洗い出した。

9 三の丸からプロジェクト

(1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

(2) 組織

ア 申請者 福島県（福島県立博物館）

イ 共同申請者

会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

(3) 助成

令和4年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(4) 事業内容

ア 文化資源磨き上げ事業

周遊のための文化資源の調査・撮影等調査については、絵図や古文書などから若松城下の町や商業の成り立ちを探り、地形図等の精査から城や城下町の立地の地形的な特色等について検討した。また雪国の暮らしについて、現存する建造物・古民家について資料を集めて検討した。

撮影については、当館が収蔵する文化資源の撮影（デジタル化）を、「若松城下絵図屏風」「蒲生氏郷画像」（国重文）をはじめとして17件を対象に実施した。また、奥会津の自然環境や周遊ポイントの四季の景観等の撮影を、前年度に行った冬（雪）バージョンに続けて、春・夏・秋の各時期に実施した。

イ 展示強化事業

西レストコーナー、部門展示室（民俗）に展開する映像コンテンツ企画の基本計画を作成した。西レストコーナーでは、若松城の土塁に面する窓に若松城のマップアニメなどを映し「会津のSAMURAI文化」を紹介する基本計画、部門展示室（民俗）では、「若松城下の商工文化」「雪国のくらしとものづくり文化」を体感できる映像空間制作を行う基本計画を作成した。

機材の選定や施工概要の検討、雪景色やものづくり現場の撮影、学芸員による解説映像の撮影、編集を経て、「会津の四季」「雪景色」「ものづくりの解説」「サイノカミ行事の解説」からなる映像を制作。部門展示室（民俗）北側に展開する幅約20mの巨大スクリーンに高輝度プロジェクター3台を用いて映写し、展示資料と映像表現を組み合わせ、城下・雪国の風土とくらし、ものづくり文化の魅力を体感することのできる空間を創出した。

ウ 体験型プログラム提供事業

武家文化を観賞・体験する「見て触れて 会津の武家文化に親しむ」と題する4つのプログラムを実施した。また、会津のものづくりを体験する「冬場にじっくり！ 会津・ものづくり体験」と題する6つのプログラムを実施した。会津塗、会津本郷焼の制作体験のプログラムも新たに実施することができ、会津のものづくりの多様さを伝えることができた。

エ 若松城下まちなか連携事業

会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で行う連携展示（4月～5月開催、共通テーマ「まちかたの暮らしにも本郷焼」）及び連携イベント（10月～11月開催、共通テーマ「楽しむたしなみ 会津でふれる武家文化」）を各会場で開催した。連携展示の会場は、福西本店、竹藤、末廣酒造嘉永蔵、会津塗伝承館鈴善漆器店（いずれも国登録有形文化財）と福島県立博物館を含めた5会場とした。連携イベントの会場は、先にあげた4カ所の国登録有形文化財の4会場とし、新型コロナ

ウイルス対策で人数制限がなされる中であることから、イベントの様子を動画作成しYouTubeで公開した。

また、令和4年度にリニューアル整備を行った部門展示室（民俗）と連携可能な歴史的建造物を素材にした周遊促進のためのパンフレットを作成した。

オ 多言語化事業

総合展示室の大テーマ解説年表、小テーマ解説、展示資料解説（キャプション）の英語・中国語（簡体字・繁体字）の多言語化を実施した。前年度に実施した大テーマ及び中テーマ解説多言語化に続き、今年度で総合展示室の多言語化を完了することができた。

多言語テキストに加え既存の日本語テキストを視認性やユニバーサルデザインに留意しながらデザイン委託し、成果はサインとして掲出するとともに、昨年度導入したサーバーネットワーク式のデジタルサイネージにて年表を追加し配信した。

カ 利便性向上事業

常設展示室（部門展示室）、企画展示室、講堂、視聴覚室、実習室、体験学習室へのWi-Fi環境整備を行った。また、多様な来館者に対応した観覧の利便性向上に向け、テレプレゼンスロボットを使用した遠隔観覧の試行を行ったほか、福島県点字図書館職員や福島県立視覚支援学校教員との打合せを経て、視覚に障がいがあっても常設展総合展示室で同行者とともに楽しむ、また当館解説員との対話を楽しめるシステムとして視覚支援カード『さわって観るてんじカード』の製作を行った。

キ 周遊促進事業

福島県立博物館のレストランを会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができる空間にするための整備を行った。また、会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができるマルシェを春と秋に開催した。

ク 国内外プロモーション事業

共同申請者と三の丸からプロジェクトを通じて、会津の文化資源を国内外に発信するためのプロモーションについての協議を行い、併せて、令和4年度事業における実施状況を踏まえて、日本政府観光局（JNTO）より派遣いただいた同局理事に、プロモーション事業についての指導・助言を頂いた。

ケ 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備

常設展部門展示室「民俗」を、周遊につながるゲートウェイ機能を持つ展示室として整備した。

また、周遊を促進するとともに、親子連れや未就学児などの利活用環境整備の一環となるよう、体験学習室の整備を行った。

第14節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度まで「福島県会津自然の家」について、「アメニティグループ」に指定管理することとなる。

(2) 所在地

- ア 福島県郡山自然の家
福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46
〒963-0213 TEL 024-957-2111
FAX 024-957-2112
URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>
- イ 福島県会津自然の家
福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1
〒969-6504 TEL 0242-83-2480
FAX 0242-83-2481
URL <https://www.aizu-shizen.jp/>
- ウ 福島県いわき海浜自然の家
福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53
〒979-0335 TEL 0246-32-7700
FAX 0246-32-7730
URL <https://iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和4年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度から引き続き、利用定数、利用団体数、利用日数（宿泊日数）の制限など、それぞれの地域の状況に合わせ、制限内容を変更するとともに、企画事業の延期や中止などの措置も取りながら運営を行った。

このような中でも、3施設とも、感染対策等に努めながら、令和2年度を底に、令和3年度に引き続き、4年度も前年度の利用者や利用団体数を上回る利用があり、増加傾向となった。

第15節 福島県郡山自然の家

1 概要

(1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和4年度には延べ利用者数が179万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分という交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、心身共に健全で心豊かな青少年を育成することを目的とした社会教育施設である。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開している。

また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、年代や性別を問わず利用しやすい施設とすべく対応を進めている。

また、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々にご利用していただけるよう、多様な企画事業を展開するとともに特色あるプログラムの開発に努めている。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除染を実施し放射線量の低減に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど情報提供に努めてきた。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため企画事業の中止や利用人数を制限した影響で、利用団体数276団体（前年比62団体増）、延べ利用者数11,494人（前年比2,624人増）となった。

(2) 職員組織

職名	人員
所長	1
指導部長	1
事務局長	1
指導部主任	1
指導員	1
体験指導員	3
事務員	1
運転手	1
計	10

(3) 令和4年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、LGBTQ など性の多様性を尊重し互いの価値観の尊重により人に優しい自然の家。」を実現すべく取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用団体・社会教育団体利用に際しては、各団体指導者との緊密な連携に努めた。学校利用団体については、4月に実施を予定していた、第1回の学校利用指導者研修会が新型コロナウイルス感染拡大により中止となったが、8月にあらためて指導者研修会を実施した。その際、新型コロナウイルスへの対応について詳細に説明するとともに、安全安心な利用を進めるための取り組みについて情報提供を行った。席上、活動プログラムの作成に際しては、参加者が密にならないように配慮した。

(イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしなが、新型コロナウイルス対応に万全を期すよう事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。

(ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、コロナ禍にあっても安心安全な対応が図れるよう努めた。

イ 魅力ある企画事業の運営

(ア) コロナ禍にあっても季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに参加人数を見直し、密にならないよう注意しながら地域や関係機関との連携に努めた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ、内容や方法等に工夫・改善を加え、利用者の満足度向上に努めた。

ウ 広報の充実と利用促進

(ア) ホームページやInstagramなど様々な広報機会を利用し、本所における新型コロナウイルス対策に関する情報提供に努めた。また、コロナ禍にあっても新しい生活スタイルに対応した事業周知の在り方を模索する中、在籍する園や学校をとおして園児・児童・生徒に直接チラシを配布することにより、各家庭に各種企画事業について情報提供を行った。

また、サザッピー会員に対しては、事業に関する案内

を電子メールを用いて直接情報提供を行った。

(イ) 新型コロナウイルスに関する対応や企画事業案内及び事業の実施状況等をホームページに逐次掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供を行った。

(ウ) 県内の自然の家が広報機会を共有するという目的の下、各所で作成するチラシ等に他所の情報を掲載するコーナーを設けたが、効果的な運用には至らなかった。

(エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザッピークラブ」とした。会員名簿の整理と新規会員獲得に努めた結果、前年度の38名に対し、今年度は116名と大幅に増加した。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提に立ち、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。また、新型コロナウイルスに関する対応マニュアルについて、随時見直しを行うとともに対策の徹底を図った。

・各団体の利用前のコースや遊具点検の徹底。

・3密回避と換気及びマスクの着用、手洗いの徹底。

・特に食堂利用時の感染防止のため、アクリルボードを設置し、黙食の徹底を図った。また、食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。

・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。

・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合及び郡山市公園緑地課との連携による計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

(イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学校及び郡山消防署の協力のもと、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て、消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的を実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、コロナ禍にあっても3密を回避しながら実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて各種訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができた。さらに、安全・安心な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大きいことから、相互の信頼関係を日々醸成するべく情報の共有・伝達に努めた。

オ 施設・設備の整備及び消毒

(ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、コースロープを設置し、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際しては、「目視、触診、打音、振動、負荷、

作動」により器具の状態を確認するとともに、随時、必要な補修及び整備に努めた。

(イ) 館内については、トイレはもとより使用した物品について消毒の徹底を図った。また、清掃管理簿を場所ごとに準備し、消毒の有無について所員が情報を共有するとともに責任の所在が明らかとなるよう、体制を整え対応した。また、所バスについては、車内に除菌装置を設置し対応に当たった。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

ア 本館 172 名 (15 部屋)

イ ロッジ 126 名 (9 棟)

ウ テント 120 名 (20 張)

(3) 敷地面積

237,587.59 m²

(4) 建物面積

延床面積 3,792.12 m²

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

ア 野外活動設備

(みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場 24 的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場 4 か所)

イ その他

(野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グラウンドゴルフ、スナップゴルフ、スラックライン、ポッチャ、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビほか)

3 利用状況

(1) 令和 4 年度利用者数

延べ利用者数 11,494 人

内訳 学校教育団体 151 団体 4,737 人

社会教育団体 59 団体 1,538 人

企画事業 66 団体 5,219 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会

(ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 ①令和 4 年 4 月 21 日 (木) 中止

②令和 4 年 8 月 23 日 (火) 参加者数 22 名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・活動プログラム実技研修

イ ボランティア実践研修

(ア) 目的

ボランティアに関する基礎知識、技能習得のためにプログラム実技研修会を実施し、ボランティアの育成に努めた。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 ①令和 4 年 6 月 11 日 (土)～12 日 (日)

②令和 4 年 7 月 16 日 (土)～17 日 (日)

対象 県内の高校生以上の学生

参加者数 ①28 名 ②32 名

(ウ) 研修内容

- ・ボランティア活動の意義
- ・安全、救急講習
- ・活動プログラム実技研修

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ月間

(ア) 目的

カタクリの群生、桜を觀賞し、春の自然を満喫する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 4 年 4 月 1 日 (金)～30 日 (土)

対象 一般

参加者数 368 名

(ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を觀賞した。

イ さくらウオーク

(ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 4 年 4 月 9 日 (土)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 68 名 (ほかボランティア 3 名)

(ウ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約 5 km・10 km に分かれて散策をした。

ウ オープニングセレモニー

(ア) 目的

令和 4 年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 4 年 4 月 20 日 (水)

対象 郡山市立多田野小学校 (堀口分校含)

4、5 年生と教員

参加者数 34名

(ウ) 活動内容

児童代表あいさつや鳶を用いたテープカットなどのセレモニーを行った後、アスレチックを楽しんだ。

エ 春のオープンデー

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年5月29日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 204名

(ウ) 活動内容

郡山自然の家の活動プログラム、学校法人国際総合学園各大学の仕事体験ブースなどを提供した。

オ 親子でチャレンジ!

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

家族や親子で野外活動に挑戦し、体力の増進を図るとともに、家族間の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年6月19日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 100名

(ウ) 活動内容

午前午後の定員制とし、3種目をローテーションで体験した。

カ 夢冒険キャンプ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

キ 親子で満喫テント泊

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

自然の家で、火おこし、野外炊飯、テント泊を通して親子の絆と家族の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年8月27日(土)～28日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 31名

(ウ) 活動内容

荒天のため会場を体育館内とし、活動プログラムを雨天時用に変更し、テント泊を実施した。

ク 第20回郡山自然の家オープンデー

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年9月11日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 398名

(ウ) 活動内容

郡山自然の家の活動プログラム、学校法人国際総合学園各大学の仕事体験ブースなどを提供した。

ケ 登山を楽しもう

(ア) 目的

登山についての知識を学び、トレッキングしながら紅葉を楽しむ。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年9月25日(日)

→台風15号のため10月23日(日)に変更

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 21名

(ウ) 活動内容

台風15号の影響により延期となったが、様々な状況下における登山の知識を学ぶ機会となった。

コ おとなヨガ&こども自然体験

(ア) 目的

心身のリフレッシュと自然に触れあう親子での体験活動の場とする。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年9月4日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 66名(ほか講師1名)

(ウ) 活動内容

大人向けのストレッチ教室と子ども向けの自然散策体験活動に分かれ、それぞれの時間を有意義に楽しんだ。

サ 秋の田園ウォーク

(ア) 目的

秋の逢瀬町の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年10月8日(土)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 29名

(ウ) 活動内容

ロング・ショートコースに分かれ、秋の田園風景を楽しみながら健康増進を図った。

シ 自然散策といも煮会

(ア) 目的

野外炊飯等をおとして食についての意識を高め、家族の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年10月15日(土)・16日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 65名

(ウ) 活動内容

親子でアドベンチャーコースを体験するとともに野外炊飯をおとして、家族間の交流を深めた。

ス 親子五色沼ハイキング

(ア) 目的

家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しみ、家族間の交流を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年11月13日(日)

対象 小学生を含む家族・グループ

参加者数 30名

(ウ) 活動内容

ボランティアガイドによる説明を聞きながら、裏磐梯の自然を満喫するとともに家族間の親睦を深めた。

セ ハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー

(ア) 目的

ミニ門松やクリスマスリース作りをとおして、文化を見直し親子や友達との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年12月11日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 30名(ほか講師1名)

(ウ) 活動内容

地域の協力のもと、年末の行事を理解し家族や友人との親睦を深めた。

ソ 名人から学ぶけん玉教室

(ア) 目的

親子でけん玉検定にチャレンジし、交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年12月25日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 53名(ほか講師3名)

(ウ) 活動内容

公益社団法人日本けん玉協会東東北ブロック講師の協力のもと、けん玉の基礎から上級技までコツを学びながら、家族で楽しんだ。

タ 親子スケート教室

(ア) 目的

スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年1月15日(日)

対象 幼児から小学生を含む家族

参加者数 30名(ほか講師1名)

(ウ) 活動内容

郡山スケート協会講師からスケートの基本的な動きの指導を受け、冬のスポーツの楽しさをはじめ、心身の健康と体力の向上を図った。

チ 親子でハッピーバレンタイン

(ア) 目的

お菓子作りをとおして、作る楽しさを学ぶとともに親子や友達との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年1月29日(日)

対象 幼児から小学生を含む家族

参加者数 60名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

チョコレート菓子の制作は幼児でも大変分かりやすく、親子で手作りする楽しい時間となった。

ツ わくわく!ファミリー冬のつどい

(ア) 目的

スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族間の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年2月4日(土)~5日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 26名

(ウ) 活動内容

スキー教室を実施し、初めて滑った参加者も滑れるようになり満足感を得た。宿泊体験もあり他のプログラムも体験することができた。

テ 冬のクラフト教室

(ア) 目的

親子や家族で自然の素材を使ったオリジナルの小物を作成し、家族の絆や交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年2月26日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 67名(ほかボランティア1名)

(ウ) 活動内容

親子で3種類のクラフト制作を体験し、親子間・家族間でのものづくりの楽しさを共有することができた。

ト スコアオリエンテーリング記録にチャレンジ

(ア) 目的

スコアオリエンテーリングの記録会を実施し、自然への親しみと健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年3月5日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 49名

(ウ) 活動内容

親子で早春の自然を体験し、健康増進と親睦を図る良い機会となった。

ナ サザッピークラブDAY

(ア) 目的

本所サザッピークラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年3月12日(日)

対象 サザッピークラブ会員

参加者数 29名(ほかボランティア2名)

(ウ) 活動内容

直近1年間の新規会員を対象として、家族対抗競技を実施することで会員間の親睦が図られた。

(3) 協力事業

ア 国立磐梯青少年交流の家いなわしろフェスティバル

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年6月5日(日)

対象 フェスティバル参加者

参加者数 202名

(ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者及び他団体との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

イ 須賀川市子どもの祭典

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年10月9日(日)

対象 祭典参加者

参加者数 148名

(ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

ウ 福島ファイヤーボンズホームゲーム出店

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年4月30日(土) 参加者数152名

令和4年10月1日(土) 参加者数255名

令和4年10月2日(日) 参加者数176名

令和4年12月3日(土) 参加者数110名

令和4年12月4日(日) 参加者数144名

令和4年12月24日(土) 参加者数51名

令和4年12月25日(日) 参加者数90名

令和5年2月18日(土) 参加者数134名

令和5年2月19日(日) 参加者数179名

令和5年3月26日(日) 参加者数200名

対象 ゲーム観戦者

(ウ) 活動内容

郡山市総合体育館で開催されたプロバスケットボール公式戦会場において、缶バッジブースを出展し本所の周知と利用拡大を図った。

(4) 年間継続事業

ア みどりの広場アスレチック&活動館開放します!

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和4年4月23日(土) 参加者数38名

令和4年5月14日(土) 参加者数32名

令和4年5月21日(土) 参加者数31名

令和4年11月5日(土) 参加者数33名

令和4年11月26日(土) 参加者数27名

令和4年12月3日(土) 参加者数17名

令和4年12月17日(土) 参加者数22名

令和5年1月21日(土) 参加者数17名

令和5年2月18日(土) 参加者数6名

令和5年3月18日(土) 参加者数11名

対象 県中地区の特別支援学校・学級の幼児及び小学生とその家族

b 期日 令和4年4月24日(日) 参加者数98名

令和4年5月15日(日) 参加者数87名

令和4年5月22日(日) 参加者数70名

令和4年11月6日(日) 参加者数125名

令和4年11月27日(日) 参加者数54名

令和4年12月4日(日) 参加者数74名

令和4年12月18日(日) 参加者数56名

令和5年1月22日(日) 参加者数47名

令和5年2月19日(日) 参加者数53名

令和5年3月19日(日) 参加者数76名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

開放に際しては定員制とした。自然の家の理解促進と、利用者がコロナ禍においても思いっきり体を動かす機会を提供することができた。

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

家族や親子に体を動かす機会を提供するとともに、自然の家のプログラム体験をとおして、心身の健康や体力向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和4年5月29日(日) 参加者数 32名
6月26日(日) 参加者数 100名

対象 県北地区の小学生を含む家族

b 期日 令和4年5月29日(日) 参加者数 162名
(※ いわき地区からの参加者4名を含む)

7月3日(日) 参加者数 74名

対象 県中地区の小学生を含む家族

c 期日 令和4年5月29日(日) 参加者数 10名
7月3日(日) 参加者数 34名

対象 県南地区の小学生を含む家族

d 期日 令和4年7月10日(日) 参加者数 94名
対象 相双地区の小学生を含む家族

(ウ) 活動内容

本所の様々なプログラムを家族で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年12月1日(木)～令和5年3月17日(金)

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者数 35団体911名

(ウ) 活動内容

体育館や活動館のアスレチック施設を利用した運動と、積雪時にはそり滑りを行った。

エ こころのケアが必要なこどもを対象とした事業

(ア) 目的

様々な不安を抱え登校等が困難な児童生徒を対象に豊かな自然の中での活動を通して自己肯定感を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和4年5月18日(水) 参加者14名

令和4年9月24日(土) 参加者7名

令和4年10月5日(水) 参加者22名

令和4年10月22日(土) 参加者16名

令和4年11月12日(土) 参加者15名

令和4年12月10日(土) 参加者16名

対象 集団活動や登校が困難な児童生徒

(ウ) 活動内容

保護者や教員と連携し、児童生徒の状況や負担に配慮しながら自然体験活動や交流活動を実施した。

第16節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和4年度末で42年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和4年度の利用者数は、19,429人で、前年度を4,558人程度上回った。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設を目指して運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職名	人員
所長	1
副所長	2
総務長	(1)
総務事務員	2
指導員(常勤)	5
指導員(非常勤)	2
嘱託運転手	1
計	13

(2) 令和4年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供する。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供
活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催
里山開放デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。

(ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進
学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。

(エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発
前年踏襲にとらわれず、企画事業において子どもだけでなく大人も対象とした様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。

イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行った。

(ア) 各関係機関との連携強化(事業のタイアップ)
市町村教育委員会や学校、公民館等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。

(イ) ホームページやフェイスブックを活用しての効果的な情報の発信

タイムリーな話題を、時期を逃さずホームページにアップできるよう、担当が中心となり更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。

(ウ) 地域や各団体への新規プログラムの提供
研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるようにした。

(エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供

ボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。

ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供する。

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇
団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 感染症(新型コロナウイルス、ノロウイルスなど)への対策や予防徹底

利用者の事前の健康チェック、来所時、活動時の検温と消毒、食堂の椅子の配置、消毒液の設置などあらゆる対策に努めた。

(ウ) 日常(事前、事中、事後)及び定期的安全・確認の徹底

労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。

エ 施設・財産を守る。

(ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実
会計事務にかかる研修や、服務倫理委員会を定期的に開催し、会計事務の適正化を図った。

(イ) 事業等の整備と保管

a 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化

研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。

b 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法などをデータに保存し、活用できた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

ア 本館 25 室 290 名(うち 1 室障がい者用)

イ ロッジ 10 棟 150 名

ウ テント 10 張 60 名

(3) 敷地面積

249,848.98 m²

(4) 建物面積

ア 延床面積 5,893.8 m²

(ア) 管理研修棟(鉄筋造 2 階建)

(イ) 宿泊棟(鉄筋造 2 階建)

(ウ) プレイホール(鉄筋造)

(エ) アセンブリホール(鉄筋造)

(オ) 機械棟(鉄筋造 3 階建)

(カ) ロッジ(木造平屋建)

(キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)

(ク) 炊飯場(鉄筋造)

(ケ) 薪置場(コンクリートブロック造)

(コ) 車庫(鉄筋造)

(ク) 野外便所(鉄筋造)

(5) 運動広場面積

8,500 m²

(6) 設備備品等

ア フィールドアスレチック

イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具

ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR

エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー

オ ピアノ、オルガン

カ 伝承遊びセット

キ クラフト用具

ク 各種オリエンテーリング用具

ケ アルペンスキー

コ 歩くスキー(クロスカントリースキー)

サ そり、スノーチューブ

シ スノーシュー

ス 営火場(4か所)

セ 諸活動コース

ソ その他

3 利用状況

(1) 令和 4 年度の利用団体数

延べ利用者数 19,429 人

内訳 学校教育団体 241 団体 12,797 人

社会教育団体 95 団体 3,262 人

ファミリー 39 団体 185 人

企画事業 41 企画 3,185 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

a 自然の家設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法の理解を図る。

b 児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。

c 集団宿泊活動等が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

a 第 1 回：令和 4 年 4 月 15 日(金) 31 名参加

第 2 回：令和 4 年 4 月 22 日(金) 41 名参加

第 3 回：令和 4 年 4 月 28 日(木) 36 名参加

b 幼稚園、保育所及び小中学校の教員

(ウ) 研修内容

a プログラム体験

b プログラム調整会

イ ステップアップセミナー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ ボランティアのつどい

(ア) 目的

a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。

b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。

c プログラム体験の機会を設け、各種主催事業等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和4年5月8日(日) 16名参加
第2回：令和4年11月6日(日) 13名参加
- b 高校生、一般
- (ウ) 研修内容
 - a ボランティア講座
 - b 本所プログラム研修

(2) 教育研究事業

ア 通学キャンプ

- (ア) 目的
 - a 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自立的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
 - b 中学校進学前に、同じ中学校へ進学予定の他校の児童との交流を図ることにより、中学進学の不安を少しでも解消できるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年11月17日(木)～19日(土)
- b 会津坂下町立坂下南小学校・坂下東小学校の5～6年児童
- c 49名

(ウ) 活動内容

- a 室内ゲーム、ニュースポーツ
- b 学習会
- c クラフト体験

イ お正月飾りを作ろう

- (ア) 目的
正月飾りをつくることで、日本の伝統文化を知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年12月25日(日)
- b お正月飾り作りに興味のある方とその家族
- c 104名

(ウ) 活動内容

お正月飾り作り

(3) 利用促進事業

ア 第18回高寺山山開き(会津坂下町との共催)

- (ア) 目的
参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年4月17日(日) 135名参加
- b 希望者

(ウ) 活動内容

高寺山・見明山登山

イ 里山開放デー(未来キッズ生き生き事業との併催)

- (ア) 目的
自然の家の野外プログラムを活用して、心身の健康増進や自然の中で家族のコミュニケーションを図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年7月23日(土)・24日(日) 560名参加
- b 希望者

(ウ) 活動内容

- a 協力外部団体(ツリーイング、里山アドベンチャー、水辺の生き物観察、森のスライダー)
- b 本所プログラム(カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どどここOL、ムシムシランド、ニュースポーツ)

ウ 夏の川遊びを楽しもう!

(ア) 目的

- a 暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
- b 夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年7月31日(日) 103名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a カヌー体験・川流れ体験
- b 水辺の生き物探し
- c 河原で水遊び

エ あったかふれあいまつり

(未来キッズ生き生き事業との併催)

(ア) 目的

- a 野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
- b 県民に施設及び周辺の環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。
- c 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年10月10日(月) 411名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a 協力外部団体(ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察)
- b 本所プログラム(野外クッキング、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どどここOL、昆虫OL、スタンプラリー)

オ 東松ウォーキング大会2022

(ア) 目的

東松峠ウォーキング大会に地区外からの参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年10月15日(土) 150名参加
- b 一般

カ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ

(ア) 目的

会津の代表的な郷土料理であるそばを打ち、新そばの

豊かな味わいを堪能するとともに、郷土の食文化のすばらしさを知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和4年11月26日(土) 33名参加
第2回：令和4年11月27日(日) 35名参加
- b 県内の小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

そば打ち体験と試食

キ 手作り森のクリスマス

(ア) 目的

- a クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。
- b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和4年12月10日(土) 51名参加
第2回：令和4年12月11日(日) 52名参加
- b 県内の小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a クリスマスケーキデコレーション
- b クリスマスクラフト作成

ク ウィンターフェスティバル

(ア) 目的

雪国ならではのスノーボード体験やそり・チューブ遊び、雪と親しむ活動等に触れることを通して、会津の冬の楽しさを感じさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年2月4日(土)～5日(日) 44名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a スノーシュー体験、スノーチューブ体験
- b 雪灯ろう作り、キャンプファイヤー
- c スノーボード教室、そり遊び

ケ クラフトキッズフェア

(ア) 目的

- a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
- b クラフト製作の場を提供することにより、本所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の拡大を図るきっかけを作る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年3月5日(日) 196名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a 木目コースター
- b 木の実アート
- c プラ板クラフト
- d Ori kiri ori クラフト

e ペットボトルクラフト

(4) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的、対象

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

(イ) 名称、期日、参加者数

- a はじめてキャンプ
令和4年5月21日(土)～22日(日) 34名参加
- b 会津自然の家里山開放デー・・・前述
令和4年7月23日(土)～24日(日) 560名参加
- c あったかふれあいまつり・・・前述
令和4年10月10日(月) 411名参加
- d 秋だ！ちびっこ大集合！
令和4年10月23日(日) 52名参加
- e ウィンターフェスティバル・・・前述
令和5年1月21日(土)～22日(日) 44名参加
- f そりすべり団体開放
令和5年1月6日(金)～2月18日(土)
1,516名参加
- g 雪遊びファミリーデー
令和5年1月22日(日) 172名参加

(ウ) 活動内容

- a アスレチック、カヌー、UFO ゴルフ、迷路
- b クラフト、オリエンテーリング、ボッチャ
- c そり遊び、スノーチューブ

イ 心のケア事業「もっくんリフレッシュデー」

(ア) 目的

心のケアが必要な児童生徒に対して、会津自然の家の豊かな環境を活かしたプログラムを提供し、自然体験活動や交流活動を通して、心身ともに健やかな人間性を育むとともに、自ら主体的に考え行動できるようなたくましい子どもたちの育成のための支援を図ることを目的とする。

(イ) 期日、参加者数

- 令和4年7月10日(日) 8名参加
- 令和4年7月22日(金) 22名参加
- 令和4年8月3日(水) 22名参加
- 令和4年9月22日(木) 18名参加
- 令和4年9月25日(日) 11名参加
- 令和4年10月4日(火) 7名参加
- 令和4年10月18日(火) 13名参加
- 令和4年10月26日(水) 18名参加
- 令和4年11月15日(火) 11名参加

(ウ) 活動内容

保護者、児童、施設と連携し、児童生徒の状況に配慮

しながら自然体験活動や手作りの活動を実施した。

- a 手作りハンバーガー、カヌー
- b 手打ちうどん作り、モルック
- c ストーンペイント、木工クラフト、アスレチック
- d ジャンボプリン作り、クレープ作り、アップルパイ作り、パフェ作り
- e ツリークライミング

第 17 節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成 8 年 7 月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年 11 月 1 日から財団法人いわき市教育文化事業団（平成 26 年 4 月 1 日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称）を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成 23 年度から同 26 年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。山林部については、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森を利用した活動プログラムの再開はできていないが、令和 4 年度には冒険の森 3 コースの一部について伐木と基幹遊歩道の整備を実施した。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成 25 年度から順次再開し、平成 30 年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、相双地区やいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

令和 4 年度の利用受け入れについては、令和 3 年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の一環として、利用定数を半数以下、利用日数も原則 1 泊 2 日まで、1 日あたりの利用受け入れは最大 6 団体まで、宿泊は 3 団体までといった利用制限を継続した。感染拡大期の宿泊利用の受け入れ停止については、部活動の合宿に限られたこともあり、全体的に利用状況の回復傾向が認められた。

年間の利用状況については 438 団体（前年比 134 団体増）、延べ利用者数 27,404 人（前年比 10,342 人増）となった。

施設管理に関しては、日常的に保守点検や環境美化に努めるとともに、利用者が少ない時期には、設備の細部点検や修繕等を集中して実施し、利用環境の整備・向上を図った。ま

た、引き続き本所の「新型コロナウイルス感染拡大防止マニュアル」に基づき、感染拡大防止対策を徹底し、利用者が安全に、安心して利用できるよう努めた。

(1) 令和 4 年度重点目標と成果

震災の影響で未だに自然体験活動が制限されているところがあり、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で利用が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、いわき市内の小・中学校長会長を訪問するなど、本所の取り組みについて情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設及び社会教育施設と連携し、公民館への出前講座等で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プログラム体験などを取り入れた研修会を実施した。令和 4 年度は、学校教育団体を対象とした学校団体指導者事前研修会について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン方式での開催とした。研修会では、研修目的に沿った活動の提案や、宿泊活動が円滑に行えるよう調整を行った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社会的集団的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合いながら事業を進めた。令和 4 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者数を限定しての事前予約としたが、地域の団体と連携した様々なスポーツ活動や自然の素材を利用したクラフト体験を多く取り入れた。広報活動についても、指定管理者が管理受託する施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果について再検討し、野外活動・海浜活動の内容の見直しについて検討を行った。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実にも努めた。令和 4 年度より、幅広い年齢層

で活動できるニュースポーツとして、モルックを導入した。

- (ウ) アンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

令和4年度は、アンケートでの要望が多かった学校教育団体のボディボード活動を、社会教育団体へのプログラムに追加し、好評を得た。

- (エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修で安全な支援方法の確認を行っている。さらに、新型コロナウイルス感染症についても感染拡大防止対策を徹底しながら活動を支援した。
- (オ) 平日の昼間に自然体験活動を希望する大人向けに、閑散期の利用促進対策も兼ねてミニ企画等を実施し、利用者から好評を博した。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

- (ア) 施設内外の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用前に所員が点検を行うとともに、年1回の公園施設製品安全管理士による点検を実施し、安全管理に努めた。用具についても、利用前に消毒と不具合の有無についての確認を徹底した。
- (イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底を図った。令和4年度は、令和3年度に実施できなかった学校団体指導者研究会をオンライン方式、活動プログラム研修会を対面方式で開催し、きめ細かい調整を行うとともに、受付やオリエンテーション、活動支援においても安全のための適切な助言や指導を行った。
- (ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため、危機管理マニュアルを作成しており、緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行っており、令和4年度は新型コロナウイルス感染症に関する項目を見直した。
- (エ) 本所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法、新型コロナウイルス感染症に関する対策等についてマニュアル化し、利用者に配布するとともに、受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。
- (オ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるように、地域の消防署、交番とも連携して安全対策を

徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDを準備し、年一回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実に努めた。

- (カ) 火災予防については、消防法に定められた防火設備の点検を実施するとともに、消防計画の作成、消防訓練の実施など、常に防火管理に努めた。
- エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。
- (ア) 利用者へのアンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。
- (イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。
- (ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務の再委託については、指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。
- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得する実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には事業支援ボランティアとして企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

また、環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年1回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。

- (イ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

(2) 職員組織

職名	人員
所長	1
次長	1
主任指導員	1
主査	1
副主任指導員	1
指導員	2
教育指導専門員	1
体験活動指導員	4
運転手	2
環境整備員	1
事務補助員	2
計	17

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

(2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室 28室)
- イ ロッジ定員 160名 (10棟)
- ウ テント定員 100名 (25張)

(3) 敷地面積

350,171 m²

(4) 建物面積

- ア 延床面積 6,696.97 m²

(ア) 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、
野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
体育館

(イ) 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m²
- イ 多目的広場 8,890 m²
- ウ 自然観察園 4,050 m²
- エ みんなの広場 4,700 m²

(6) 設備備品等

ア 体育館

(バレーボールコート2面、バスケットボールコート
1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボール
リング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、
ピアノ1台、キンボール ほか)

イ 野営場

(野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか)

ウ 野外活動設備

(フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、
トリムランド、営火場5か所 (うち1か所は利用休止
中)、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキ
ングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、

マウンテンバイクコース ほか。なお、次の施設は平成
23年度から利用制限中 (フィールドアスレチックコ
ース、冒険の森遊歩道、ロープコース)

エ 多目的広場

(ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカー
ゴール ほか)

オ その他

(視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼
窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、
海浜用具一式、マイクロバス ほか)

3 利用状況

(1) 令和4年度利用者数

延べ利用者数 27,404人

内訳	学校教育団体	242団体	18,583人
	社会教育団体	155団体	6,613人
	ファミリー	4団体	52人
	企画事業	37団体	2,156人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

令和4年度利用の学校教育団体の指導者が、活動計画
の立て方や本所の利用方法について理解を深めるとと
もに、同日に利用する学校間での活動プログラムの調整
を図る。

(イ) 期日及び参加者数

期日	令和4年4月14日(木)	参加54校
	令和4年4月21日(木)	参加58校
	令和4年4月28日(木)	参加49校
	令和4年7月26日(火)	参加34校

(ウ) 内容

新型コロナ感染拡大防止のため、全4回ともにオンラ
イン方式で実施し、時宜を得た開催方法として好評であ
った。

イ 社会教育団体指導者事前研修会 (活動プログラム研修 会)

(ア) 目的

令和4年度利用の社会教育団体の指導者が、見学会や
実技研修等を通して、活動の進め方や活動計画作成に理
解を深めることができるよう提案する。

(イ) 期日及び参加者数

期日	令和4年5月13日(金)	参加者数 18名
----	--------------	----------

(ウ) 内容

活動プログラムを体験することによりプログラムの
理解を深め、計画の立案材料として役立たせることがで
きた。また、相談会では、参加者の目標とする計画に沿
うよう立案の助言や他団体との調整を行い、利用当日の
計画が円滑に実施できるように調整した。

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年5月8日(日) 参加者数12名
令和4年7月10日(日) 参加者数10名
令和4年9月25日(日) 参加者数7名
令和4年12月18日(日) 参加者数7名
- ・対象 高校生以上

(ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

(2) 利用促進事業

ア 遊ぼう！初夏の海で

(ア) 目的

初夏の舟戸海岸で、釣りや磯遊びを楽しみながら、親子のふれ合いを深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年5月15日(日)
- ・対象 小学校に通う児童とその家族
- ・参加者数 16名

(ウ) 内容

定員30人の事前予約制で実施。いわき市内小学校の運動会日程変更の影響で多くのキャンセルがあったが、魚釣りをしながら家族間の会話を楽しみ、初めて見る磯の生き物の生態を理解し、実際に手で触れることで豊かな海の大切さを学んだ。

イ 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年5月29日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 193名(ほか講師6名、ボランティア11名)

(ウ) 内容

定員200人の事前予約制で実施。クラフト、ニュースポーツ、野外炊飯など様々な活動を通して本所への理解を深めるとともに、広く県民へ本所を周知することができた。

ウ ふれあいサマーキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年7月30日(土)
- ・対象 小学生(4～6年生)
- ・参加者数 29名

(ウ) 内容

当初は2泊3日で計画したが、新型コロナ感染拡大防止のため、活動プログラムを1日コースで体験できるように再構成し、日帰りで実施した。定員30人の事前予約制。自然体験を通して、参加者同士の交流を深め、協調性を高めた。また、個人の役割を与えることにより、自己肯定感の向上や、責任感をもって自ら考え行動する姿を見ることができた。

エ スポーツフェスティバル（未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

子どもから大人まで一緒に様々なスポーツを楽しみながら、体力向上や健康維持などへの意識向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年10月9日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 229名(ほか講師2名、ボランティア15名)

(ウ) 内容

定員250人の事前予約制で実施。協力団体と連携して様々なプログラムを提供したことで、身体を動かすことへの意識を高めることができた。特にいわきFCを講師に招いたサッカー体験教室は、非常に好評であった。

オ 秋のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年10月23日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 274名(ほか講師16名、ボランティア7名)

(ウ) 内容

定員250人の事前予約制で実施。クラフト、ニュースポーツ、野外炊飯など様々な活動を通して本所への理解を深めた。また、当財団が指定管理する文化施設や地域団体との連携により、体験ブースを設けて多種多様な体験活動を参加者へ提供することができた。

カ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれ合う喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年11月5日(土)～6日(日)
- ・対象 小学生(4～6年生)
- ・参加者数 24名

(ウ) 内容

定員24人の事前予約制で実施。1泊2日で、テント設営、ナイトハイキング、野外炊飯、ハイキング等の自然体験活動を通して、自然の豊かさを感じながら、協調性・社会性を身につけ、個々の自立心を養った。また、自分たちで収穫したサツマイモを野外炊飯で使用し、食育への意識を高めることができた。

キ 親子のつどい

(ア) 目的

親子が一緒に季節にふさわしい体験活動をするこ
とで、家族の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年12月11日(日)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 51名(ほかボランティア9名)

(ウ) 内容

定員50人程度の事前予約制で実施。家族が協力し、
自然の素材を利用したクリスマスリース・ミニ門松作り
と自然の家オリジナルのゲームを通して親子の絆を深
めた。

ク 冬を楽しもう！～スキー教室～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ケ クラフトのつどい

(ア) 目的

自然の素材を生かしながらオリジナルの作品を作り、
地域の豊かな自然環境を体感する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年2月5日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 129名(ほかボランティア4名)

(ウ) 内容

定員150人の事前予約制で実施。ドライフラワーのジ
ェルキャンドル、凧、キーホルダー、ストーンアート、
貝の壁飾り等を製作した。子どもから大人まで楽しめる
クラフトを提供し、地域の方々に本所への理解を深めて
もらうことができた。

コ 森の音楽会

(ア) 目的

地元演奏家によるコンサートを聴き、音楽に親しむ心
や、本所の活動に理解を深めてもらう。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年3月5日(日)
- ・対象 小学生以上
- ・参加者数 94名

(ウ) 内容

定員80人の事前予約制で実施。豊かな自然環境の中
で、いわきゆかりの演奏家によるジャズ演奏を楽しんで
いただき、多くの方々に本所への理解を深めてもらうこ
とができた。

(3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

本所のアスレチック施設等を利用して、身体を動かす
プログラムを提供し、県民の体力向上の促進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年11月27日(日) 参加者数163名
(ほか講師16名、ボランティア7名)

令和5年1月22日(日) 参加者数153名

(ほか講師2名)

令和5年2月26日(日) 参加者数123名

(ほか講師4名)

- ・対象 幼児から小学生とその家族

(ウ) 内容

第4回・第5回定員150人、第6回定員100人の事前
予約制で実施。第1回～第3回は主催事業と共催。アス
レチック施設以外にニュースポーツや昔遊びなどのプ
ログラムを提供し、家族一緒に楽しく活動できたとの高
い評価を得た。特にいわきFCによるサッカー体験教室
は好評であった。

イ ミニ企画事業「つるかご Workshop」

(ア) 目的

閑散期を利用し、大人を対象として平日の講座を実施
することで、他者との交流の場を提供するとともに、本
所の魅力を発信し、施設の周知を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年3月16日(木)
- ・対象 大人
- ・参加者数 19名

(ウ) 内容

定員20人の事前予約制で実施。本所周辺で採取した
葛づるを使って、オリジナルのかごを製作した。本所の
魅力を発信し、理解を深めてもらうことと、今後の利用
促進に向けた取り組みにつなげることができた。

(4) 連携事業

ア 親子自然探訪教室 主催：いわき市アンモナイトセン ター

(ア) 目的

親子でいわき市内の各所に出向き、様々な自然観察を
行う。

(イ) 期間、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年9月10日(土)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 8名

(ウ) 内容

本所のつどいの広場で、秋の夜空を観察し学んだ。い
わき市内の教育文化施設と連携することで、参加者に本
所の活動を広報することができた。

イ 第18回生涯学習フェスティバル 主催：いわき市生 涯学習プラザ

(ア) 目的

本所の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、
体験活動のプログラムを提供する。

(イ) 期間、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年2月25日(土)・26日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 87名

(ウ) 内容

本所の施設及び事業紹介、ストラックアウト、輪投げ、フロアカーリング体験を行った。本所の周知について、良い広報の機会となった。

ウ 出前講座（全8件）

(ア) 目的

本所の活動内容の紹介と学校教育団体及び社会教育団体等への利用促進を図るため、また、生涯学習の一環として、出前講座を行う。

(イ) 期間、対象及び参加者数

- a 国立磐梯青少年交流の家
令和4年6月5日(日) 参加者数203名
- b いわき市立四倉公民館
令和4年7月27日(水) 参加者数129名
- c いわき市立小川公民館
令和4年7月29日(金) 参加者数45名
- d くすのきキッズ
令和4年8月3日(水) 参加者数43名
- e いわき市立長倉小学校ときわ児童クラブ
令和4年8月4日(木) 参加者数34名
- f いわき市考古資料館
令和4年12月17日(土) 参加者数21名
- g いわき市立鹿島公民館
令和5年2月4日(土) 参加者数35名
- h 社会福祉法人いわきの里
令和5年3月14日(火) 参加者数28名

(ウ) 内容

貝殻ストラップ、ストーンアートなどのクラフト体験及び、野外活動(磯遊び)の出前講座を実施した。

